

# 病院ボランティアの調査 1999

## 医療・福祉機関によるボランティア受け入れ システムに関する調査・研究

課題番号10610176

平成10年度～平成11年度  
科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))  
研究成果報告書

平成12年 3月

研究代表者  
安立清史  
(九州大学 大学院人間環境学研究科 助教授)

## 目 次

はじめに

研究成果の概要

調査対象と方法

調査結果

「関東地区病院ボランティアの会」総会での調査結果報告資料

第六回 アジア・オセアニア地区ジェロントロジー会議(韓国・ソウル)での調査結果報告資料

調査票

1998年「関東地区病院ボランティアの会」調査・調査票

1999年「日本病院ボランティア協会」調査・調査票

## はじめに

本報告書は、平成10年度～平成11年度 科学研究費補助金(基盤研究(C)(2))「医療・福祉機関によるボランティア受け入れシステムに関する調査・研究」の研究成果報告書である。

本研究は、以下の研究目的をもっておこなわれた。

医療・福祉機関における、ボランティア活動の実態を調査し、医療・福祉機関でのボランティア受け入れシステムのあり方について考察する基礎データを収集することが、本調査・研究の主目的である。ボランティア団体やNPOによる市民活動ボランティア活動の振興のためには、ボランティアの動機や意識、活動実態などを調査し、さらに、ボランティアを受け入れる病院や老人ホームなどの医療・福祉機関のボランティア受け入れ体制の整備が重要である。本調査・研究は、ボランティア受け入れに関して、日本で先進的に取り組んでいる医療機関や病院ボランティア活動グループの調査協力をえて、ボランティア活動の実態を調査し、医療・福祉機関でのボランティア活動がより活発になるための、ボランティア受け入れシステムづくりを研究するものである。

病院ボランティアの社会的属性や活動実態について社会科学的で実証的な統計的なデータはほとんどない。どのような社会的属性、社会的特徴をもった人が、どのような動機をもって、どのようなきっかけや、どのような経路をへて、どのような条件のもとで、どのような活動にどのように参加しているのだろうか。また、活動の展開や継続にあたって、問題はないのだろうか。病院側の受け入れ体制やシステムはどうなっているのか。こうしたことが、ボランティア活動の継続や展開に、どのような影響をおよぼしているのだろうか。こうした基本的な事実や実証データが、これまであまり把握されていなかった。こうした実証データぬきにボランティアの必要性だけが言われているのが現状である。

これまでは、医療・福祉機関がこうした実証調査・研究を受け入れてこなかった、あるいは実施しにくかったが、本調査・研究では、調査・研究をとおして、ボランティアグループだけでなく、医療・福祉機関との信頼関係、協力関係を形成してきた。この土台のうえに、医療・福祉機関によるボランティア受け入れに関する病院側の調査も可能となった。

以上のような研究意図のもと、「日本病院ボランティア協会」と「関東地区病院ボランティアの会」の全面的な調査協力をえて調査研究に入ることができた。

1998年には、「関東地区病院ボランティアの会」の27の病院、病院ボランティアグループおよびボランティアの方々にご協力いただいて、病院ボランティア活動の実態と意識調査を行った。1999年には、「日本病院ボランティア協会」の14の病院、病院ボランティアグループと病院ボランティアの方々の調査協力によって活動の実態と意識調査を行った。1998年の調査にあたっては、「関東地区病院ボランティアの会」の長谷川純子さんをはじめ会の運営委員の方々たいへんお世話になった。1999年の調査では、「日本病院ボランティア協会」の岡本千秋会長や信田禮子さんたち役員の方々に、たいへん熱心にご協力いただいた。こうした方々の熱心なご協力がなければ、本調査は実現できなかった。また、調査を企画・立案するにあたって、病院ボランティア活動の実際を見学する必要があったが、東京の聖路加国際病院と大阪の淀川キリスト教病院にはたいへんお世話になった。聖路加国際病院では、看護部長の井部俊子さん、ボランティア・コーディネーターの竹内和泉さんをはじめ、多くの方々からたいへんお世話になった。淀川キリスト教病院では、副看護部長の中越洋子さん、ボランティア代表の谷垣幸代さんたちに、たいへんお世話になった。病院ボランティア活動は、ボランティアだけで成り立つものでないことはもちろんである。両病院に見られるような、病院側の積極的な受け入れ姿勢や意欲が、はじめてボランティア活動を持続的で発展的なものにしていくのだろう。病院側の受け入れシステムに関しては、今回の調査研究では、まだ課題や問題の探索、および萌芽的な問題提起を行う段階にとどまっているが、今後の非常に大きな研究課題であると認識している。

1998年度の調査結果の概要は、「関東地区病院ボランティアの会」総会において報告した。また会の運営委員の方々とは、調査結果報告を踏まえてディスカッションの時間を持つことができた。1999年度の調査結果に関しても「日本病院ボランティア協会」に報告した。協会の方々との本格的な共同検討がこれから始まる。

本調査・研究のような場合、数量的なデータだけでなく、そのデータの意味や背景を分析し、問題や課題を発見していくためには、調査データを多面的に検討することが必要になる。関東地区病院ボランティアの会の方々や日本病院ボランティア協会の方々との、共同の質的な検討と分析は、今後、本格的に開始されるはずである。

この他にも、数多くの方々に支えられて本調査・研究は成った。こうした皆様のご協力がなければ、本調査・研究は実現できなかった。あらためて感謝いたします。

本調査・研究が、日本の医療・福祉ボランティア活動のますますの発展に微力ながら貢献できることを祈念して。

2000年3月

研究代表者 安立清史

九州大学 大学院人間環境学研究科 助教授

## 研究成果の概要

1998年度に「関東地区病院ボランティアの会」所属の27病院の協力をえて「病院ボランティアの調査」を実施した。27病院で活動しているグループの登録ボランティアのうち、調査期間中に活動したボランティア全員にアンケートを配布し、自記式で回答し郵送による回収方法を取り、664票を回収した。配布方法は、27病院のボランティアコーディネーターやグループリーダーに手渡しでの配布を依頼した。以上のような経緯から、厳密な回収率の計算は困難であるが、調査票1000票を、27病院に送付し、期間中に活動したボランティアへ配布し、そこから自記式・郵送回収による方法をとったとしては、かなり高率の回収率であった。1999年度には「日本病院ボランティア協会」所属の病院のうち、1998年度に理事となっている病院すべてに調査を依頼した。方法は、1998年度と同じ方法を取り、関西を中心として14の病院の協力をえて、登録会員数に準じて各病院に合計880票を送付した。それぞれの病院で、調査期間中に活動したボランティア全員にアンケートを配布してもらい、自記式で回答し郵送による回収方法を取り571票を回収した。

このデータは、ボランティア活動に関わる制約や条件をふまえた以上のような調査方法から、日本の病院ボランティア活動の実態を正確に把握した、とまでは言えず、活動の実態と問題の所在を探索する性格の調査として位置づけられるべきものである。しかし、これだけの規模で、日本の病院ボランティアの活動実態を調査した研究は、ほかにあまり類例がないと思われる。

両調査から明らかになったことは多い。詳細に関しては、本報告書のデータおよび今後の論文で分析が予定されるが、いくつかを例示しておく。まず、女性が90%以上であり、年齢的には40代後半から70代前半までが中心で、活動は3年以内に活動を休止してしまう短期的ボランティアと、10年以上継続する持続型ボランティアの2パターンに分かれる。ボランティア活動が短期的になる原因として、今回の調査からは、交通の問題（交通経費や時間）、病院の受け入れ方法、活動上の問題に直面したときの相談やアドバイス機能の必要性、などが明らかになった。また意識構造とりわけ参加動機に関して、やや観念先行型のボランティアが、短期的なパターンをとることが示唆的に示された。活動参加動機に関しては、人生が豊かになる、社会貢献ができる、病院への感謝、勉強のため、などの理由が主であった。活動それ自体が楽しいから、という理由は、アメリカのボランティアのデータと比較した場合に顕著に少ない。日本のボランティアの場合には、意識構造が、やや理念先行型となっているかもしれない。また病院側の受け入れ体制やボランティア活動への理解もまだ発展途上であり、多くの課題があることが分かった。このてんに関しては、ボランティア側の意識調査だけでは片面的になるので、受け入れ病院側に関しても調査を行い、総合的に分析していく必要がある。今回の調査だけからは、まだ十分に実証的なことは言えない。

医療機関の中で活動する個人としてのボランティアが、活動上の問題や課題に直面した際に、ボランティアをどのようにサポートしていくかは、今後の大きな課題である。本調査では、ボランティア側の要望として、研修や勉強の機会の増大、悩みの相談やサポートの必要性などが示唆された。病院側のボランティアコーディネーターだけでは、じゅうぶんにこうした問題に応えるには限界がある。ボランティア側も、グループを形成したり、リーダーが病院側と話し合っってコーディネートする等、さまざまな試みが始まっている。

本調査・研究によって明らかになってきたことは多い。今後は、調査結果を調査対象グループへ報告し、データを共同で検討しながら、今後の問題や課題を探索していく必要がある。また、病院側の受け入れシステムの本格的な調査研究が必要なことが明らかになってきた。このてんに関する本格的な調査研究は、今後の課題である。

## 調査対象

病院ボランティアの実態を把握することを、調査の第一目的とした。

理論的には、全国の千を超えるすべての病院を実態調査して、そこで病院ボランティア活動が行われているかどうかを確かめ、ついでその活動に参加しているボランティアの全数調査、もしくは層化二段無作為抽出法などによるサンプリングによって調査対象者を決定して、アンケート調査ないし聞き取り調査を行うことが、理想的な科学的調査と言えるだろう。

しかしながら、現実にはそのような全数調査は困難である。全国の病院のいくつくらいで、また、どこで、どの程度、どのような内容の病院ボランティア活動が行われているかじたいが、基礎データがないため全容が分からない。つまり母集団が見えないのである。よって科学的に厳密な全数調査も抽出調査も、サンプリングが不可能なためできない。よって、以下のような方法によって調査を行うことにした。

長年にわたって日本の病院ボランティア活動を主導してきた「日本病院ボランティア協会」や「関東地区病院ボランティアの会」に加盟している病院やグループを調査対象とする。この方法によって、日本において代表的な病院ボランティア活動をかなりの程度網羅できる。

さらに、病院ボランティア活動が活発な関東および関西の二地点に限定して調査を行うことにした。「日本病院ボランティア協会」加盟の病院やグループは全国にわたっているが、今回は、とくに加盟病院やグループが集中している関東と関西に限定することにした。全国調査は、今後の課題とした。

1998年度には、関東において「関東地区病院ボランティアの会」の協力をえて、会に加盟しているすべての病院(28病院)に調査協力を依頼して調査を行った。すべての病院が協力していただいたが、1病院からは調査票の回収がゼロだったので集計には含まれていない。1998年度には、調査票1000票を、病院もしくはボランティア代表に送付し、配布を依頼した。配布部数は、各病院ごとのボランティア登録者数に準じたものにしたが、方法的な限界から、送付した1000票のうち、実際に何票が配布されたのかが不明であり、そのてんで、厳密な回収率は計算不可能であるが、概算すれば、1000票の約8割程度が配布され、そのうちの664票が回収されたということは、かなり驚異的に高い回収率と言えるだろう。

1999年度には、関西において「日本病院ボランティア協会」加盟の病院のうち、1998年および1999年度に日本病院ボランティア協会の役員をつとめてる病院すべての中から、通信役員というかたちで参加していく北海道と関東の各1病院(このうち、関東の病院は関東地区病院ボランティアの会に含まれている)をのぞいたすべての病院で調査を行った。1999年度にも、調査方法は前年度と同じ方法を取り、14の病院とグループに880票を配布し、病院のボランティア担当やグループ代表から配布してもらった。配布部数は、各病院ごとのボランティア登録者数に準じたものにしたが、方法的な限界から、送付した880票のうち、実際に何票が配布されたのかが正確には算出できず、そのてんで、厳密な回収率は計算不可能であるが、概算すれば、880票の約8割程度が配布され、そのうちの571票が回収されたというのは、これまた驚異的に高い回収率であった。

## 調査票

調査票に関しては、安立が1995年に、アメリカ・カリフォルニア州ロスアンゼルス近郊パサデナ市にあるハンチントン記念病院の病院ボランティアを調査したときに、アメリカ側のボランティアコーディネーターとともに作りあげた調査票(英語版)をもとに、日本語化した調査票をベースとした。

ただし、「関東地区病院ボランティアの会」や「日本病院ボランティア協会」からの要望をいれて改変した部分があり、アメリカ調査(1995)やそれをハングル化した韓国・釜山調査(1997)と、「関東地区病院ボランティアの会」調査(1998)や「日本病院ボランティア協会」調査(1999)は、厳密には同じではない。調査票は、「関東地区病院ボランティアの会」や「日本病院ボランティア協会」とともに打ち合わせながら調査内容を確定した。したがって、この両者にも異同が存在する。それぞれの異同に関しては、巻末の参考資料としての調査票を参照されたい。

## 調査方法

調査は以下のような方法で行われた。1998年の「関東地区病院ボランティアの会」調査では、1998年12月一ヶ月間のあいだに病院にボランティア活動にきたボランティアを調査対象とし、アンケート

をボランティアコーディネーターから、ボランティアが活動に来た時点で直接配布してもらうことにした。1999年の「日本病院ボランティア協会」調査では、1999年11月一ヶ月間にボランティア活動にきたボランティア全員に、ボランティアコーディネーターから直接配布してもらった。回収方法は、ともに郵送によって九州大学安立研究室へと送付する回収である。

調査票の配布方法をこのようにしたのは、ボランティアの母集団となる実数をボランティア名簿によって確定する方法がとりにくかったことと、ある一時期におけるボランティア活動の全体像をつかみたかったためである。ボランティア活動の本質として、自発的意志による参加があり、ある一時点で自発的意志によって参加しているボランティアの実態と意識を把握することが、むしろ科学的客観的なデータと言えるのではないかと想定されたからである。

近年のアメリカでの実証研究にあつては、自記式の郵送回収によるアンケート調査は、科学的な厳密さに問題がある場合があるとされるが、本調査・研究は、まず実態の全貌および仮説発見型・問題発見型調査として設計されたものであり、むしろ聞き取り調査よりもアンケート調査のほうが適切と判断した。

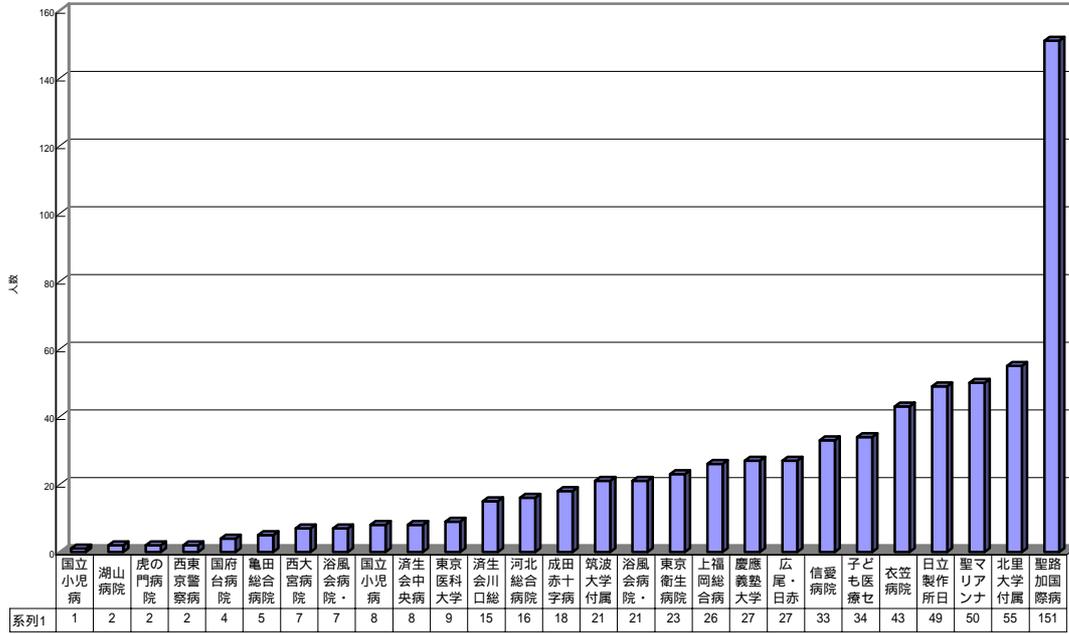
ここで発見された問題や傾向、その原因や要因に関する仮説実証型調査の段階では、あらためてインタビュー調査を検討したい。

したがって、本調査・研究は、1998年時点の「関東地区病院ボランティアの会」の活動と、1999年時点における「日本病院ボランティア協会」の関西地域での活動実態をとらえたものと言えるだろう。

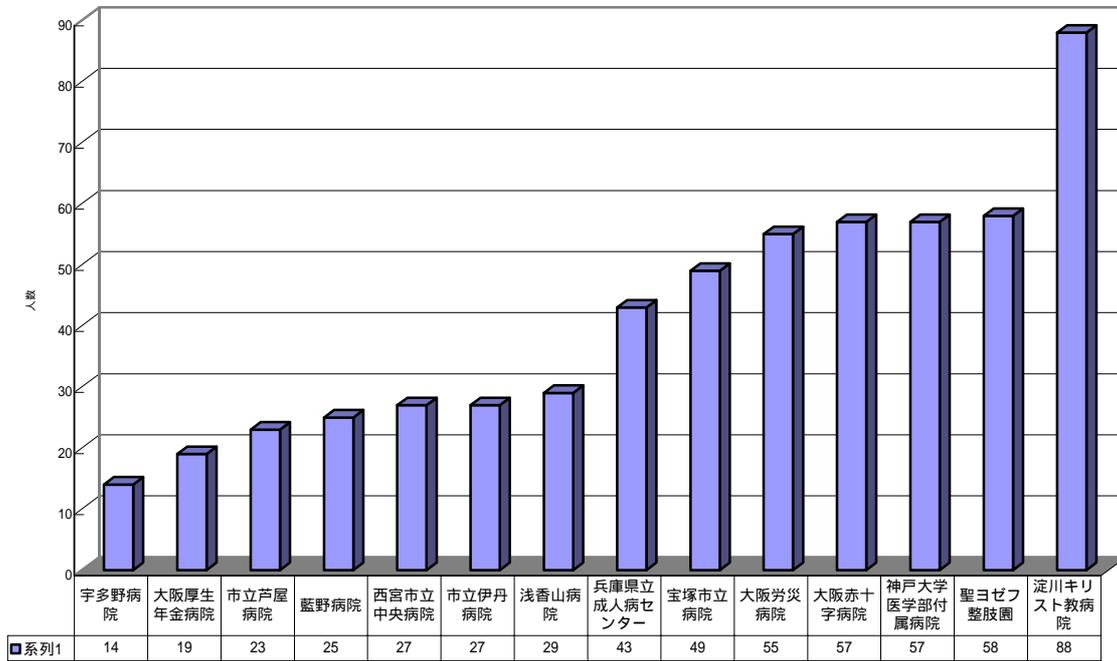
このデータが、日本の病院ボランティア活動を、どの程度代表しているのか、に関しては、現時点ではまだ何とも言えない。しかし、このような実態調査は、先行事例がまだほとんどなく、今後のボランティア活動研究に寄与する貴重なデータであることを確信している。

科学研究費・報告書

1998年 「関東地区病院ボランティアの会」調査

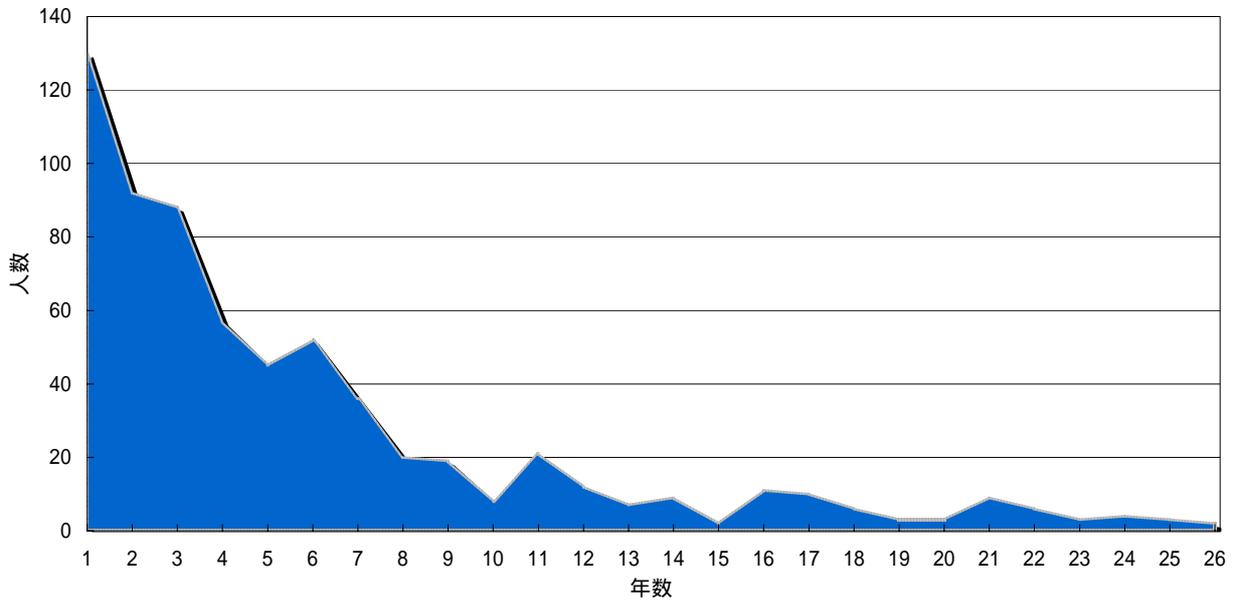


1999年「日本病院ボランティア協会」調査



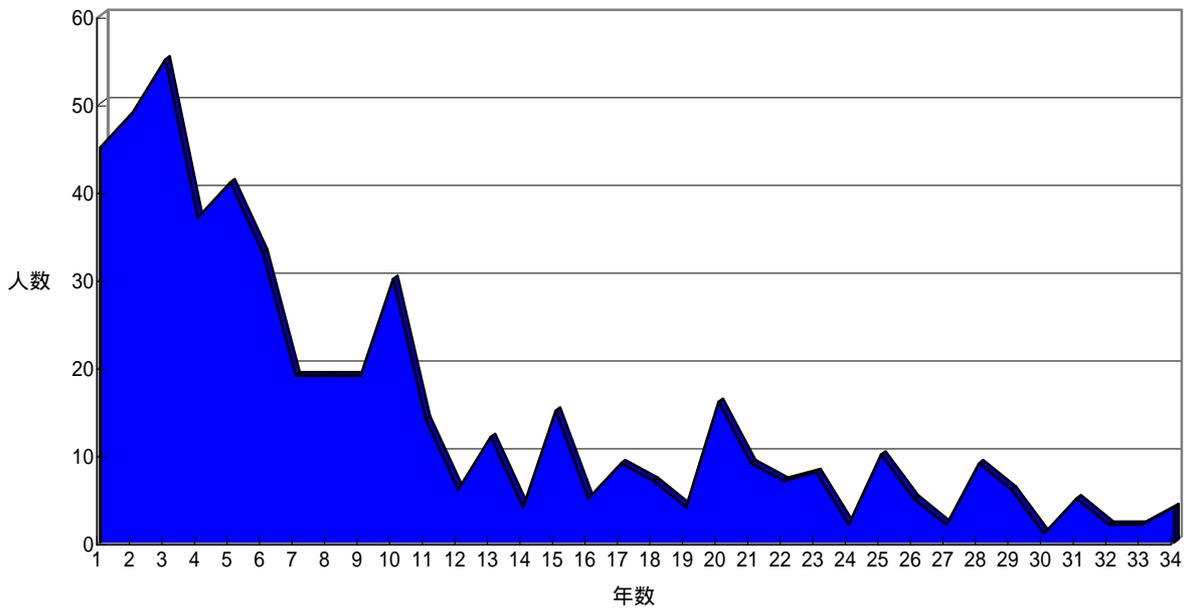
「関東地区病院ボランティアの会」

関東地区病院ボランティアの会  
活動年数



「日本病院ボランティア協会」

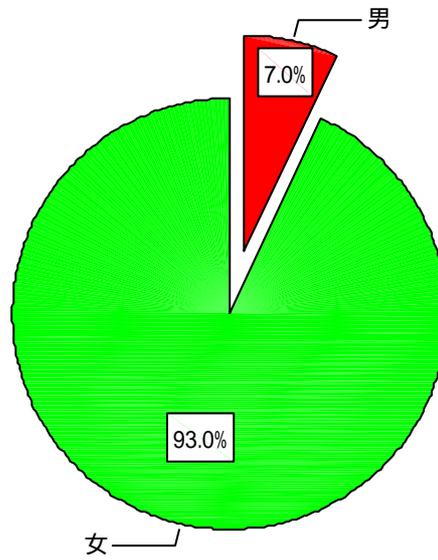
病院ボランティア 活動年数



性別

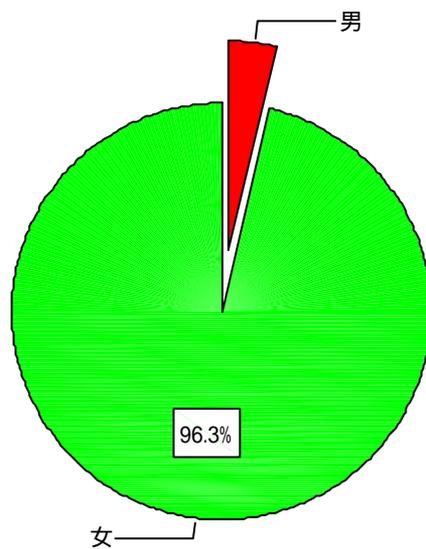
「関東地区病院ボランティアの会」

ボランティアの性別



「日本病院ボランティア協会」

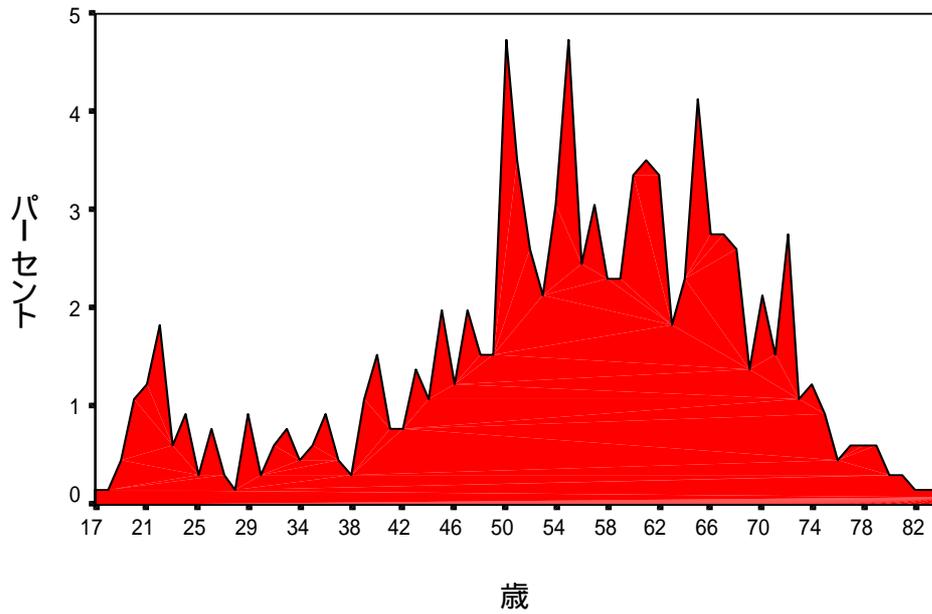
性別



年齢分布

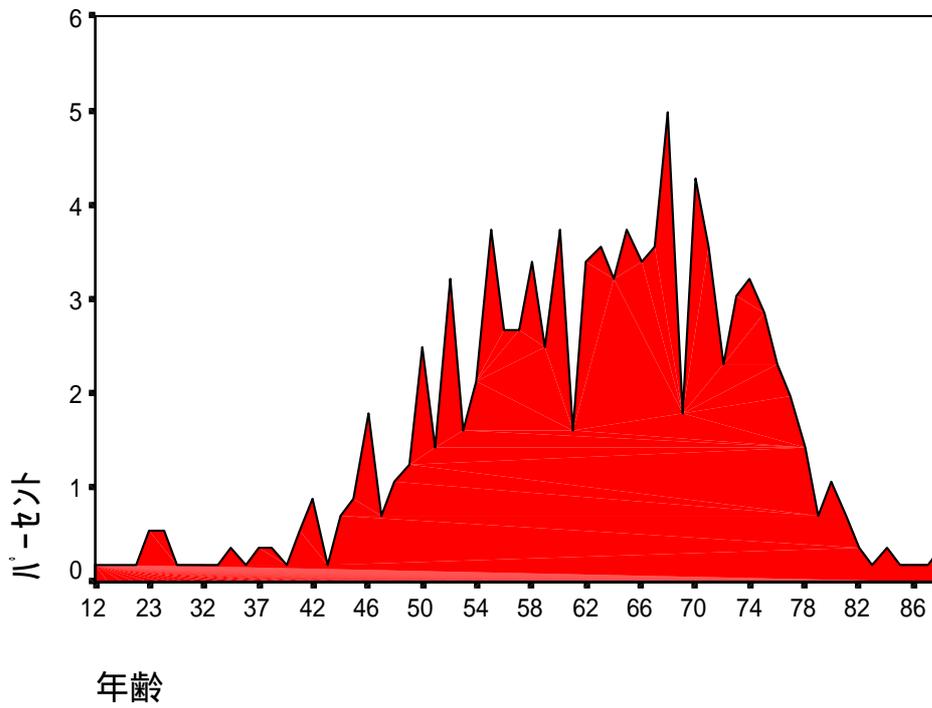
「関東地区病院ボランティアの会」

### 病院ボランティアの年齢分布

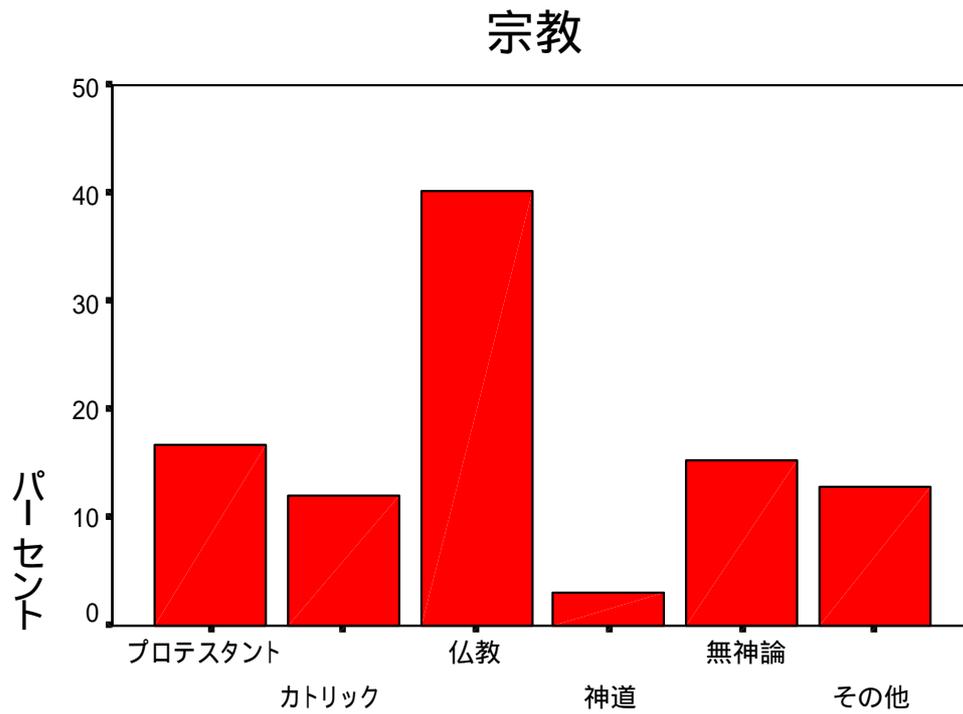


「日本病院ボランティア協会」

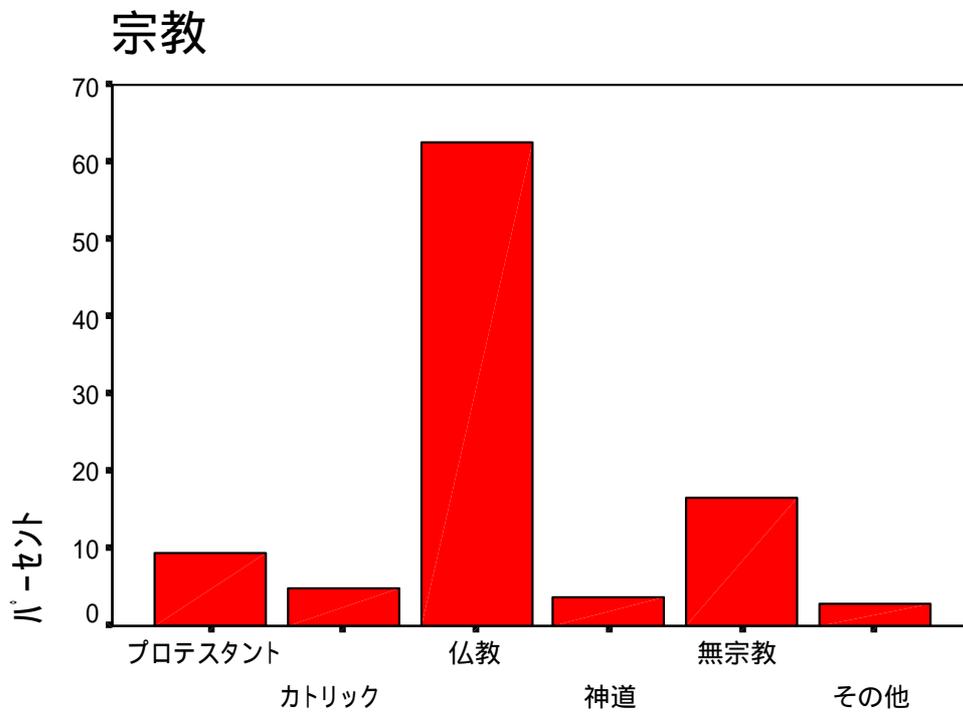
### 年齢



宗教  
1998年「関東地区病院ボランティアの会」調査



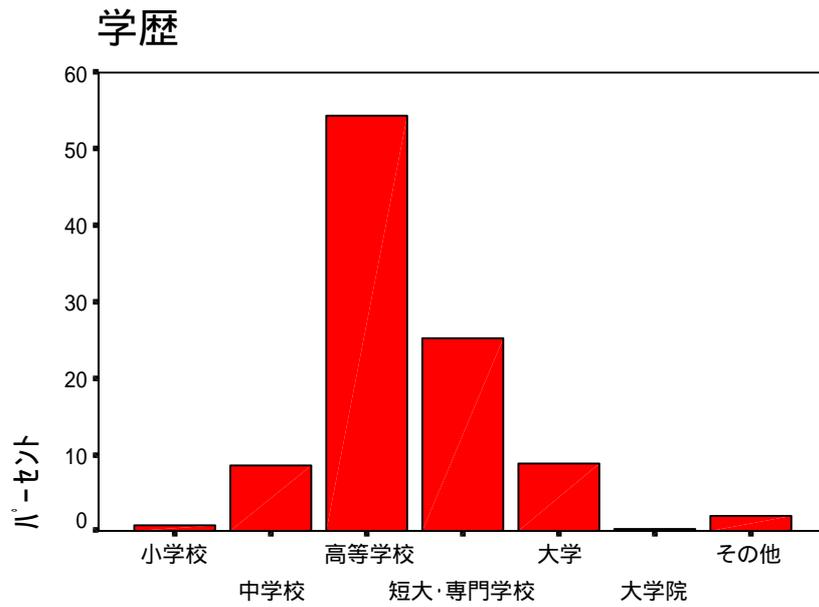
宗教  
1999年「日本病院ボランティア協会」調査



宗教

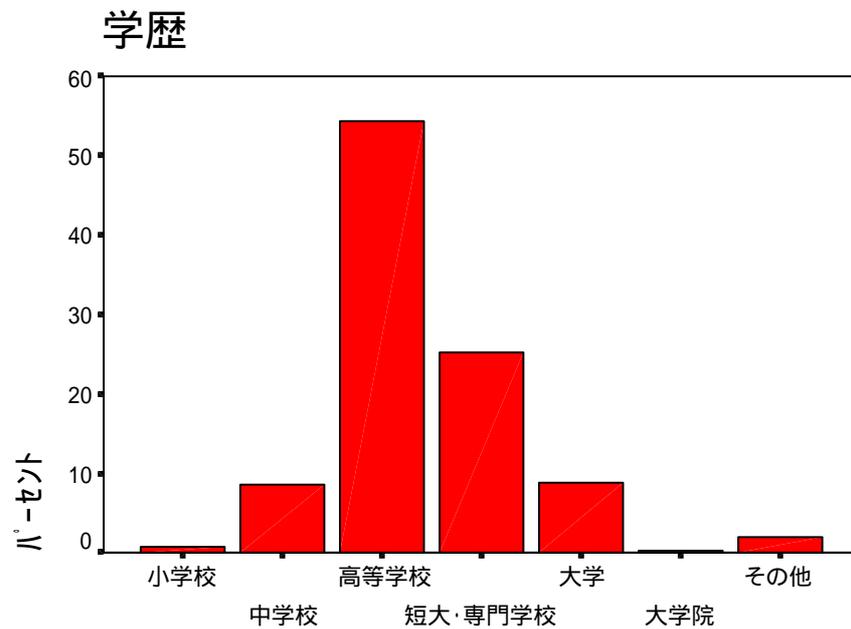
学歴

1998年「関東地区病院ボランティアの会」調査



学歴

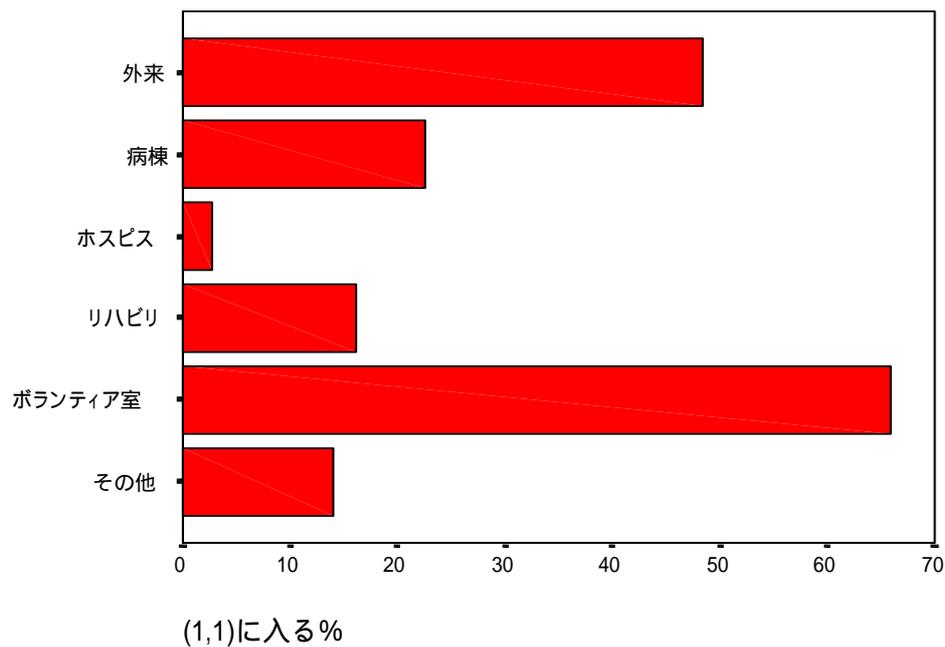
1999年「日本病院ボランティア協会」調査



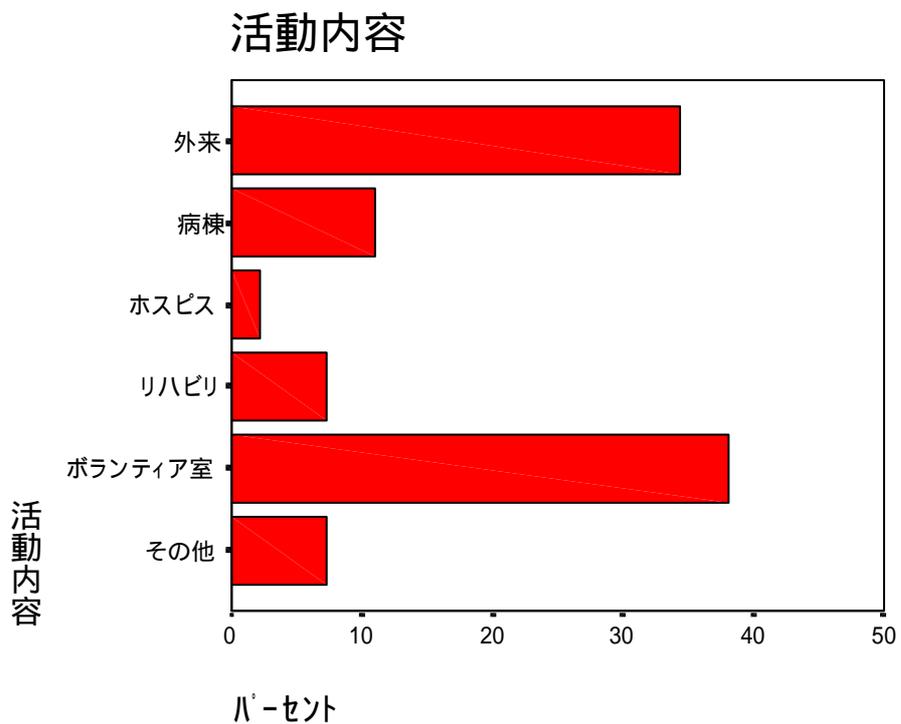
学歴

### 活動内容

1999年「日本病院ボランティア協会」調査



最も多くする活動は何ですか。

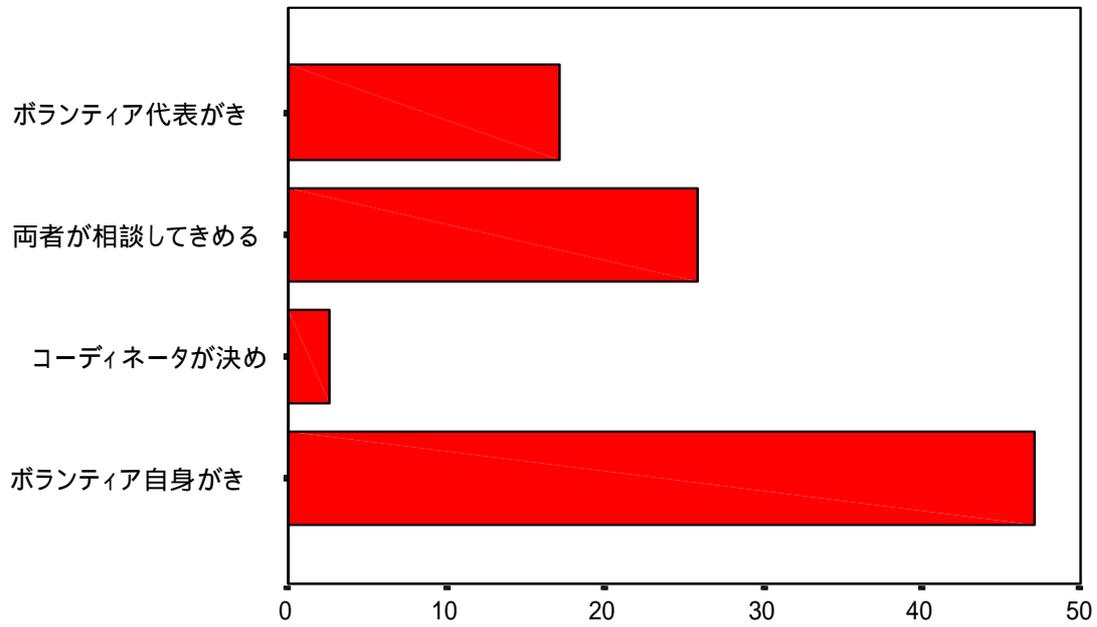


(注) 1998年「関東地区病院ボランティアの会」調査には、同一の質問文がない。

活動内容や配属先は、どうやって決めているか

1999年「日本病院ボランティア協会」調査

### 活動配属先の決定

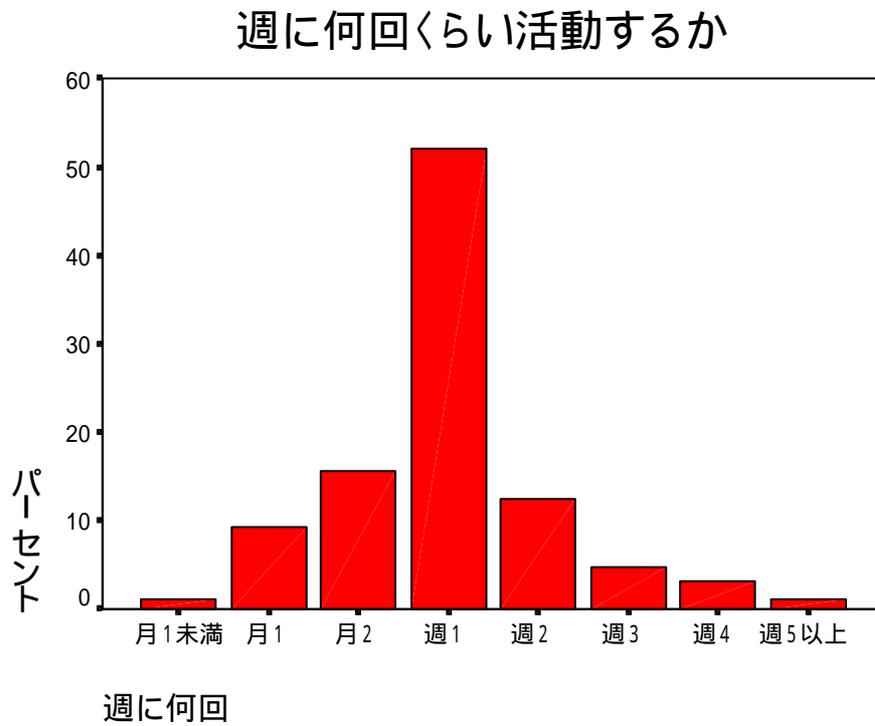


(1,1)に入る%

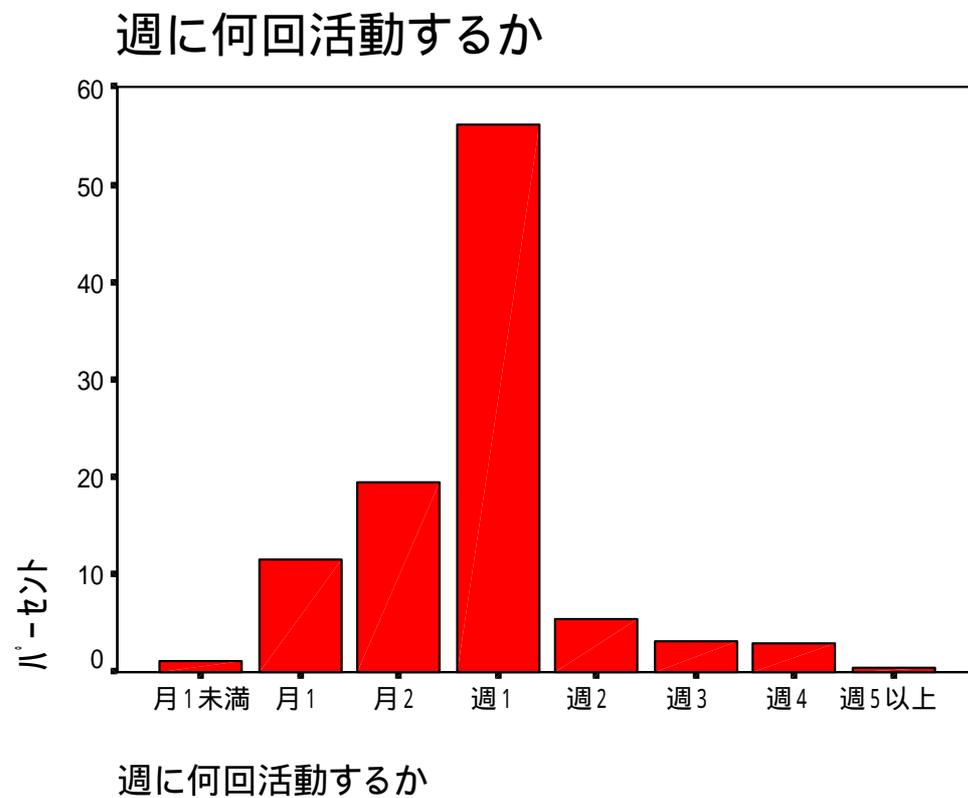
活動実態

週に何回くらい活動するか

1998年「関東地区病院ボランティアの会」調査

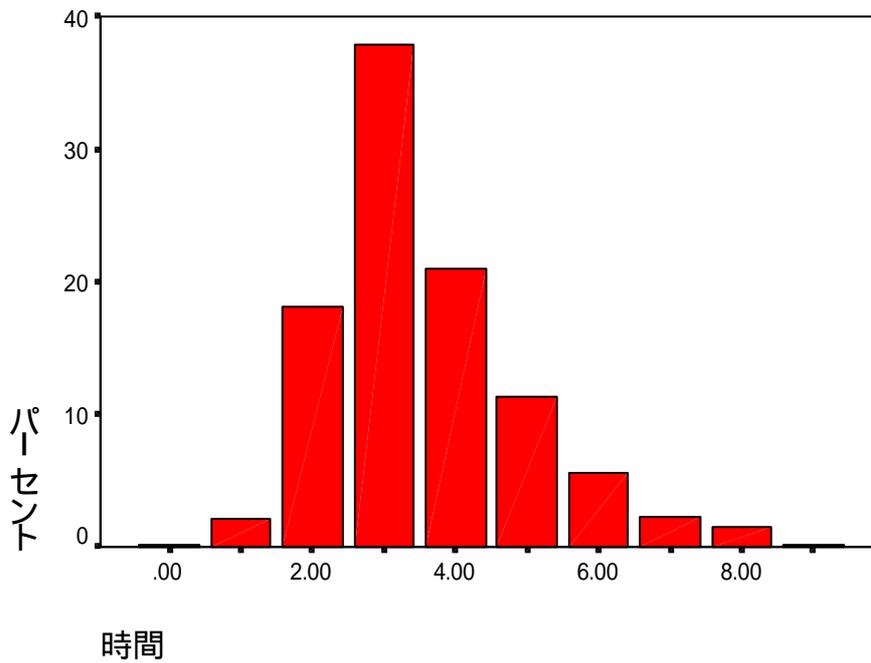


1999年「日本病院ボランティア協会」調査



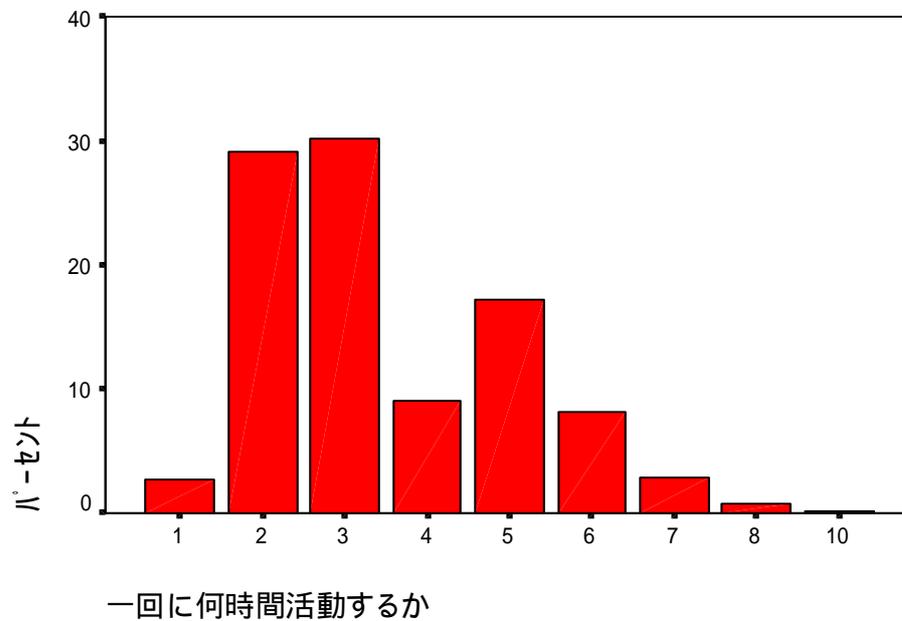
毎回、平均して何時間くらいボランティア活動するか  
1998年「関東地区病院ボランティアの会」調査

### 毎回の平均活動時間

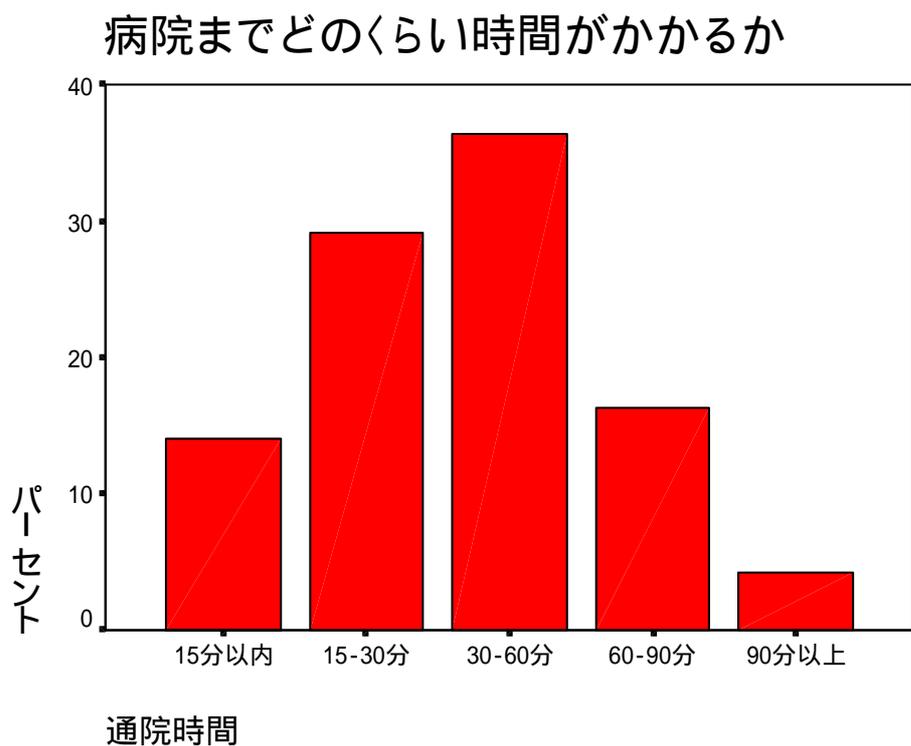


1999年「日本病院ボランティア協会」調査

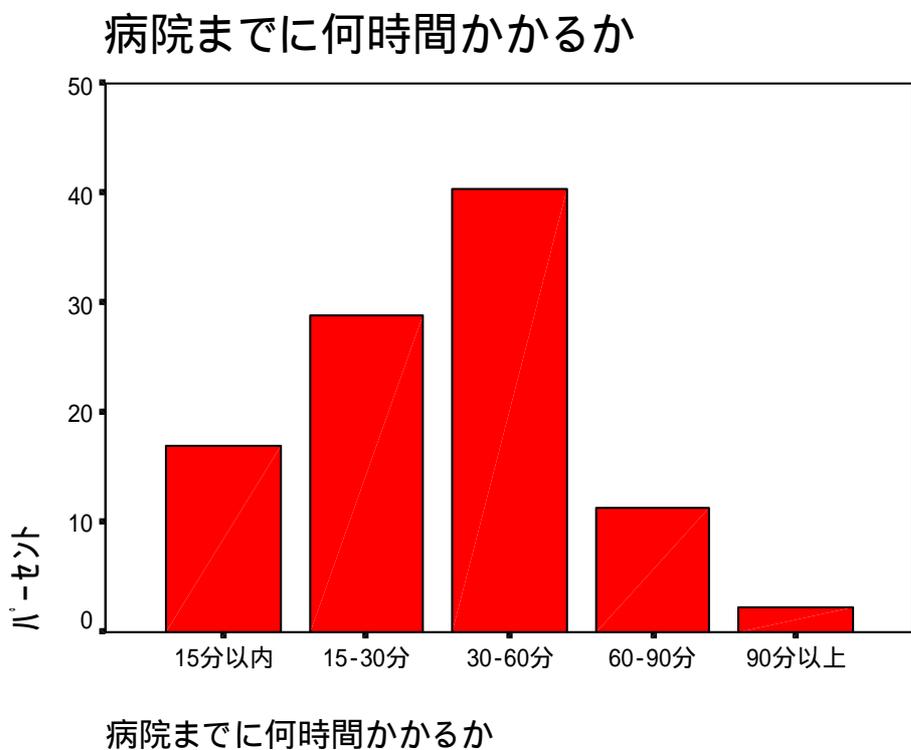
### 一回に何時間活動するか



活動場所までどのくらい時間がかかるか  
1998年「関東地区病院ボランティアの会」調査

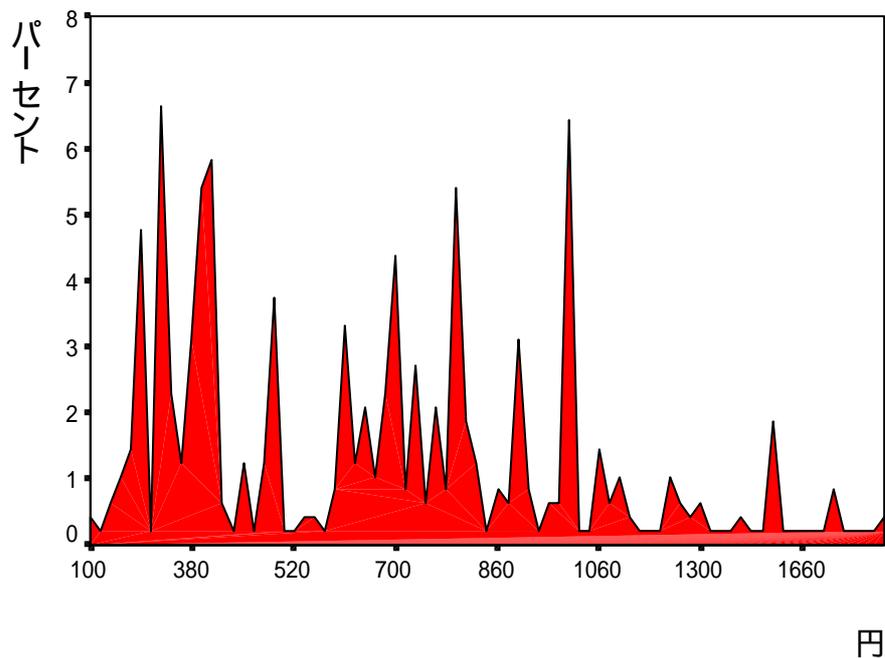


1999年「日本病院ボランティア協会」調査



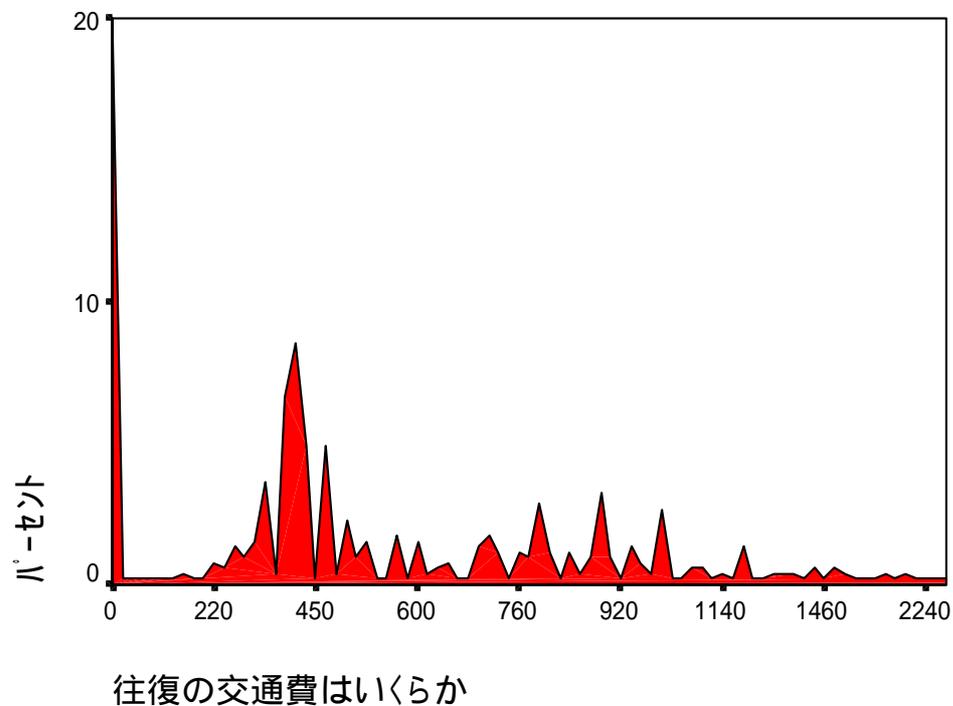
交通費はどのくらいかかるか  
1998年「関東地区病院ボランティアの会」調査

### 一回の交通費はどのくらいか

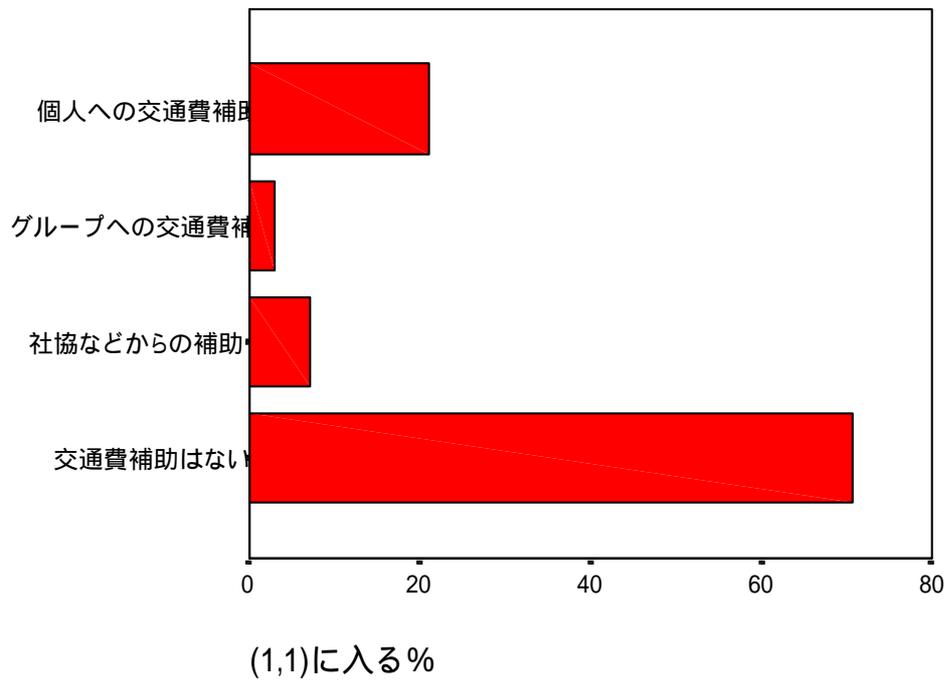


1999年「日本病院ボランティア協会」調査

### 往復の交通費はいくらか

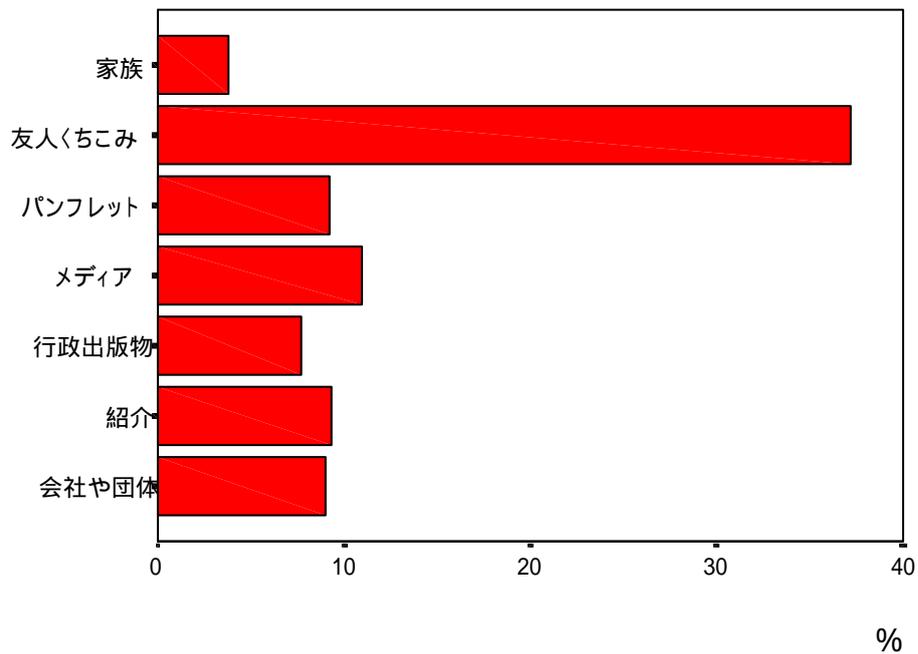


### 交通費の補助はあるか



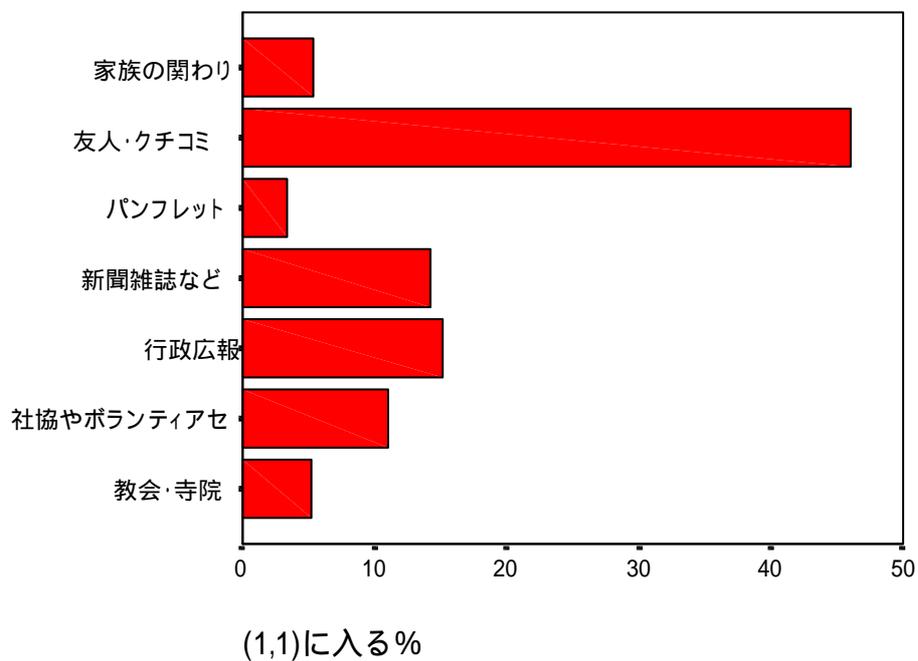
活動を知った経緯やきっかけ  
 1998年「関東地区病院ボランティアの会」調査

### きっかけ要因1



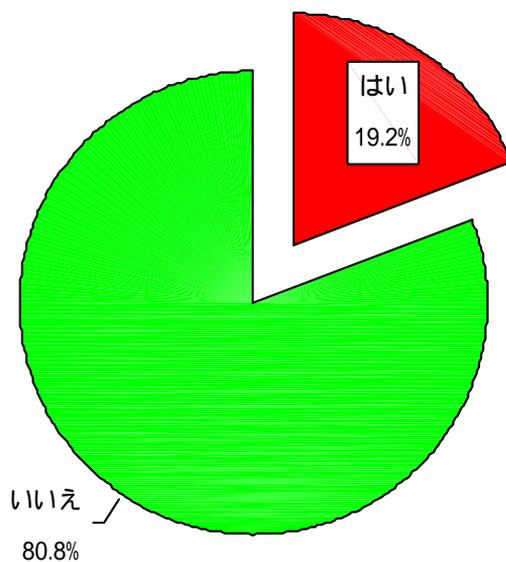
1999年「日本病院ボランティア協会」調査

### どうして知ったか



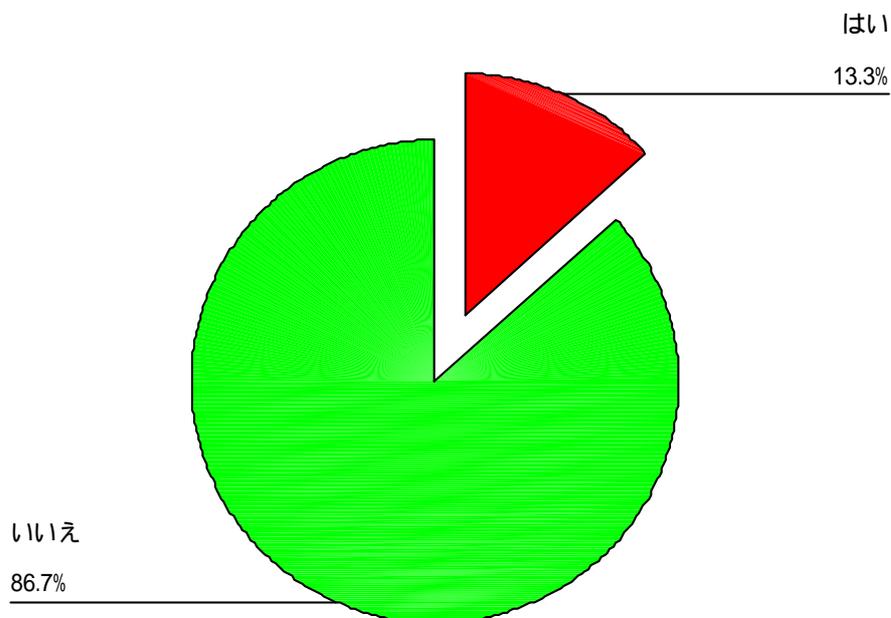
自分の入院体験がボランティア活動のきっかけであるかどうか  
1998年「関東地区病院ボランティアの会」調査

## 入院体験が活動のきっかけ



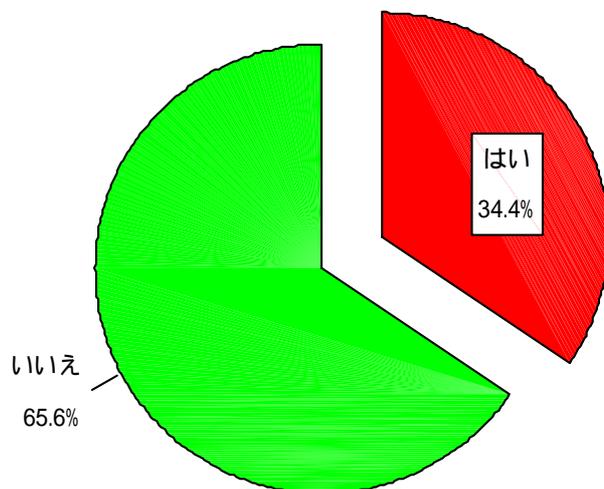
1999年「日本病院ボランティア協会」調査

## 入院体験がきっかけ



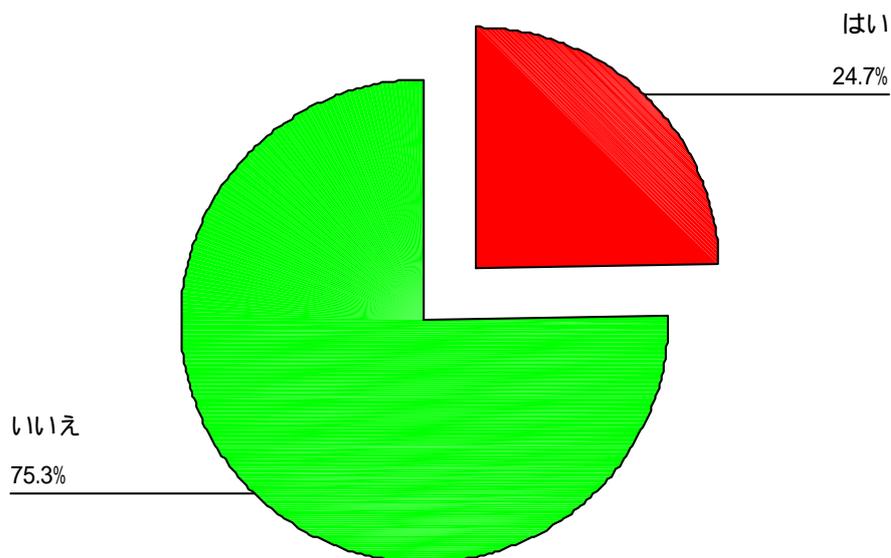
身近な人の病気や死がボランティア活動のきっかけかどうか  
1998年「関東地区病院ボランティアの会」調査

### 身近な人の病気や死がきっかけ



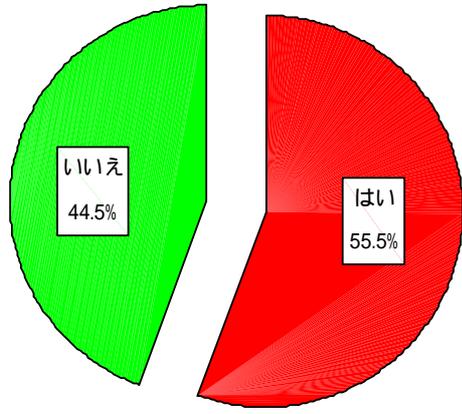
1999年「日本病院ボランティア協会」調査

### 身近な人の病や死がきっかけ



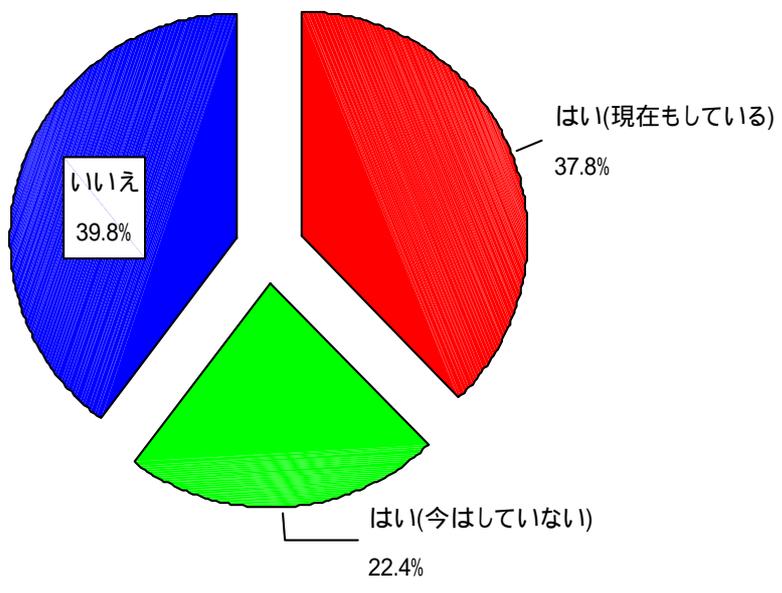
病院ボランティア活動以外に、何か、ボランティア活動しているかどうか  
1998年「関東地区病院ボランティアの会」調査

### 病院ボランティア以外の活動



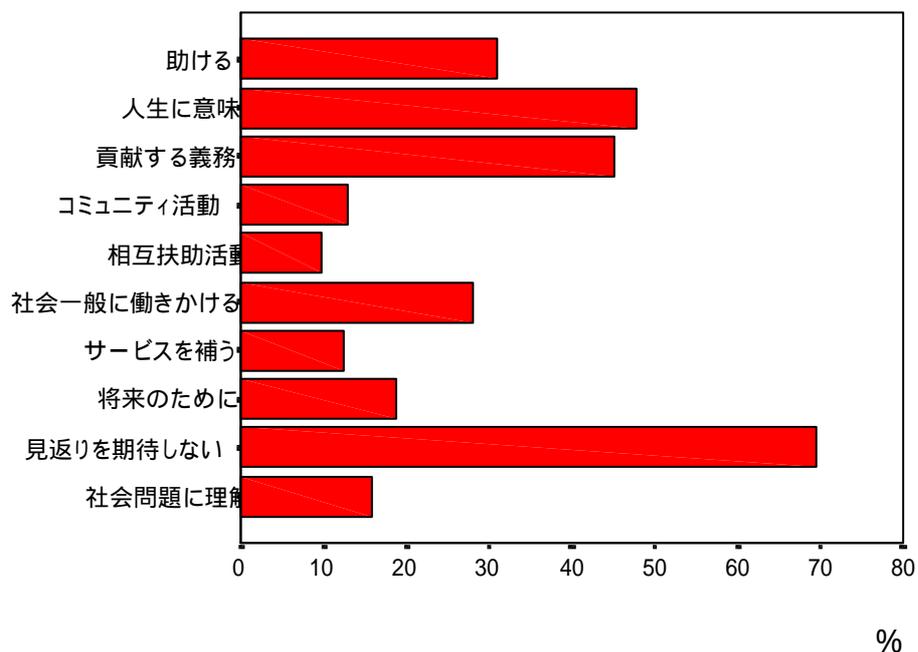
1999年「日本病院ボランティア協会」調査

### 病院以外の活動の有無



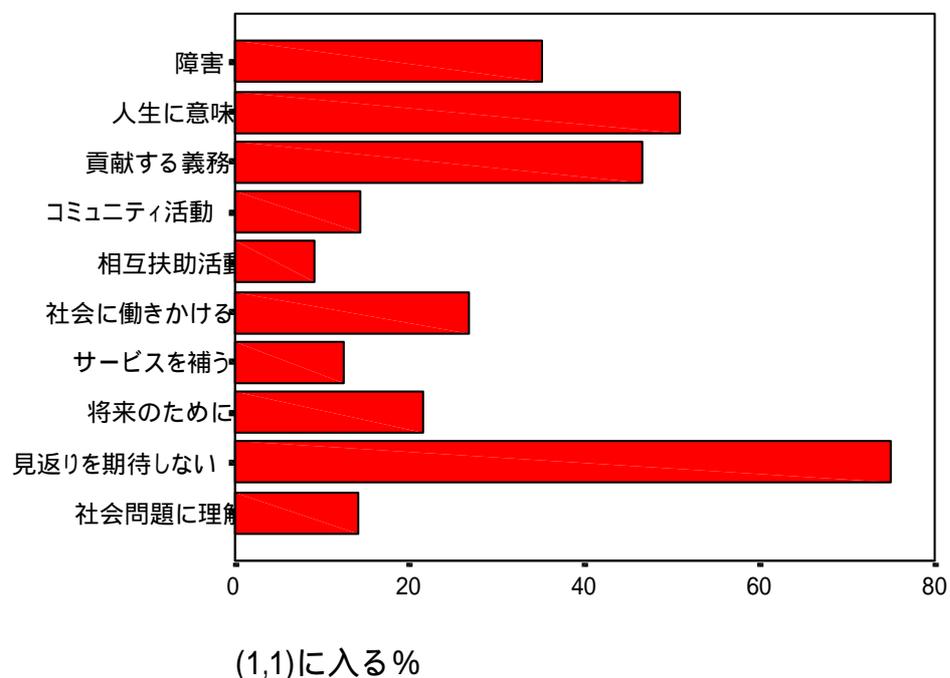
ボランティア活動の一般的なイメージはどのようなものか(複数回答)  
 1998年「関東地区病院ボランティアの会」調査

### ボランティア活動のイメージ

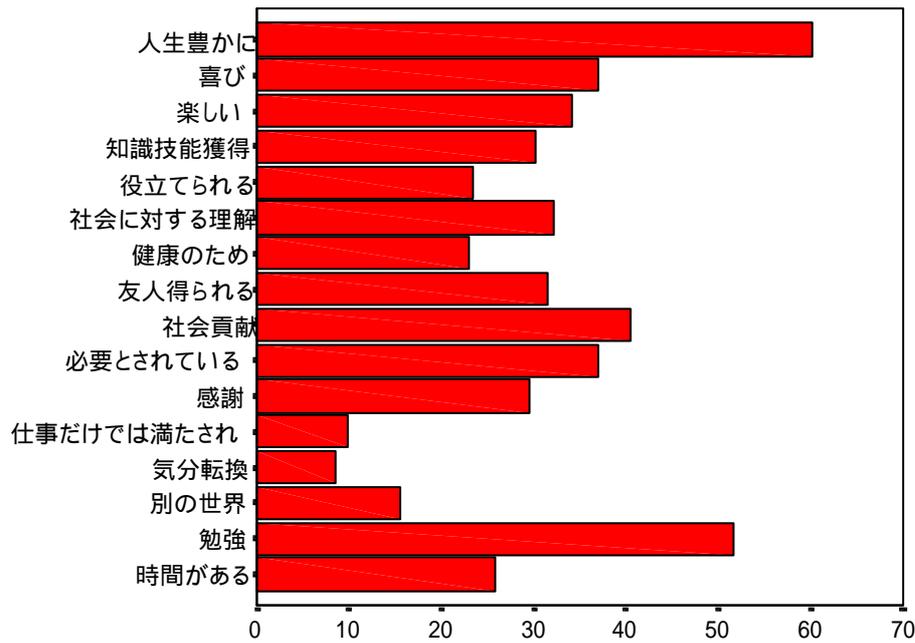


1999年「日本病院ボランティア協会」調査

### ボランティア活動のイメージ



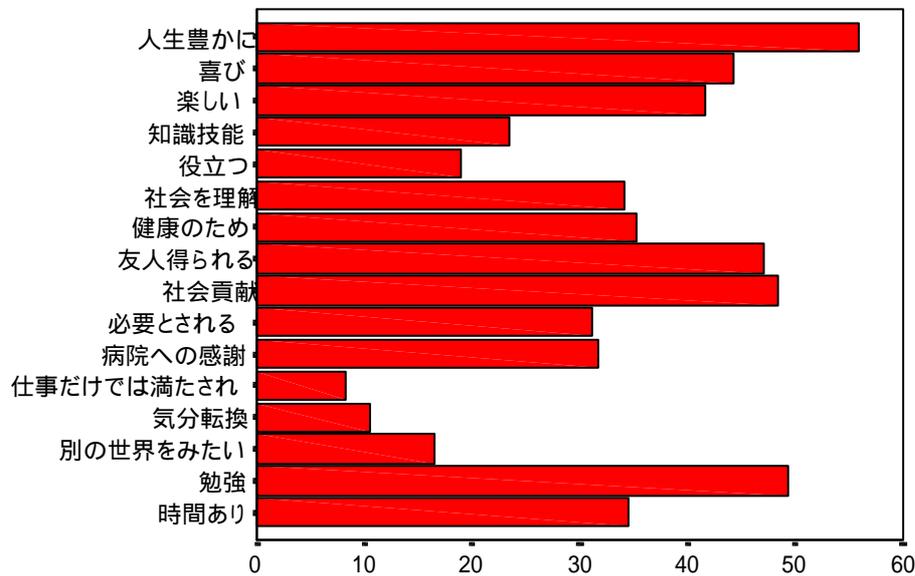
ボランティア活動への参加動機(複数回答)  
1998年「関東地区病院ボランティアの会」調査



動機の多重回答

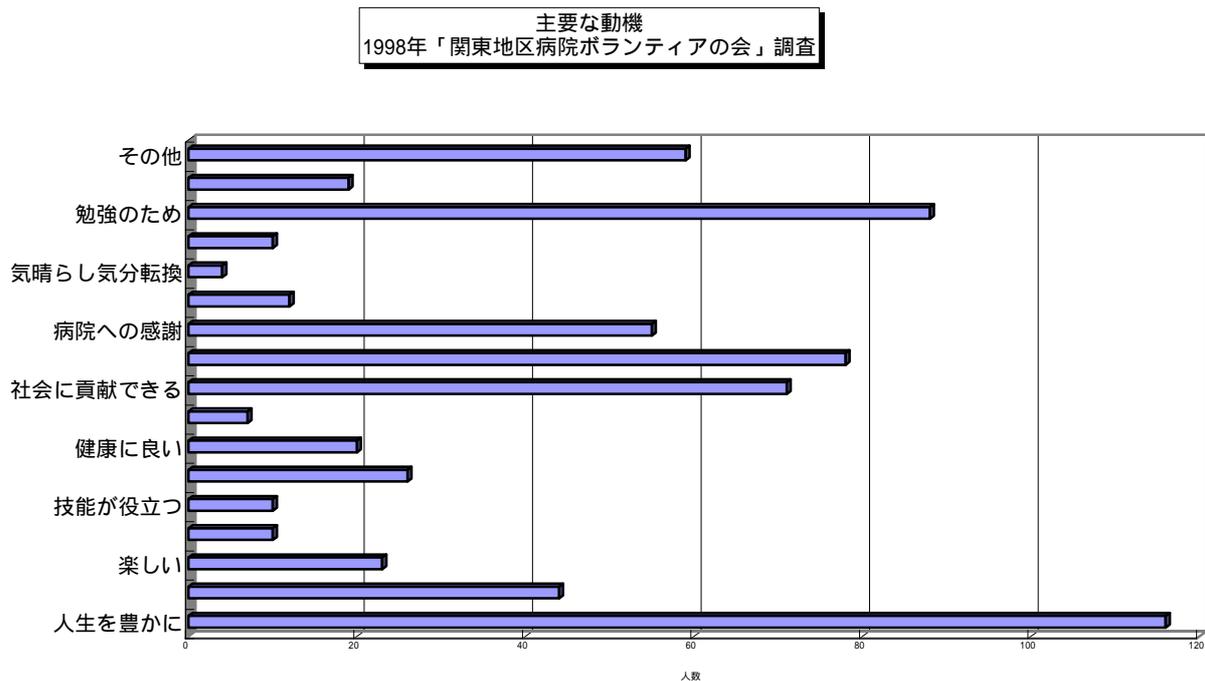
1999年「日本病院ボランティア協会」調査

活動参加理由(複数回答)

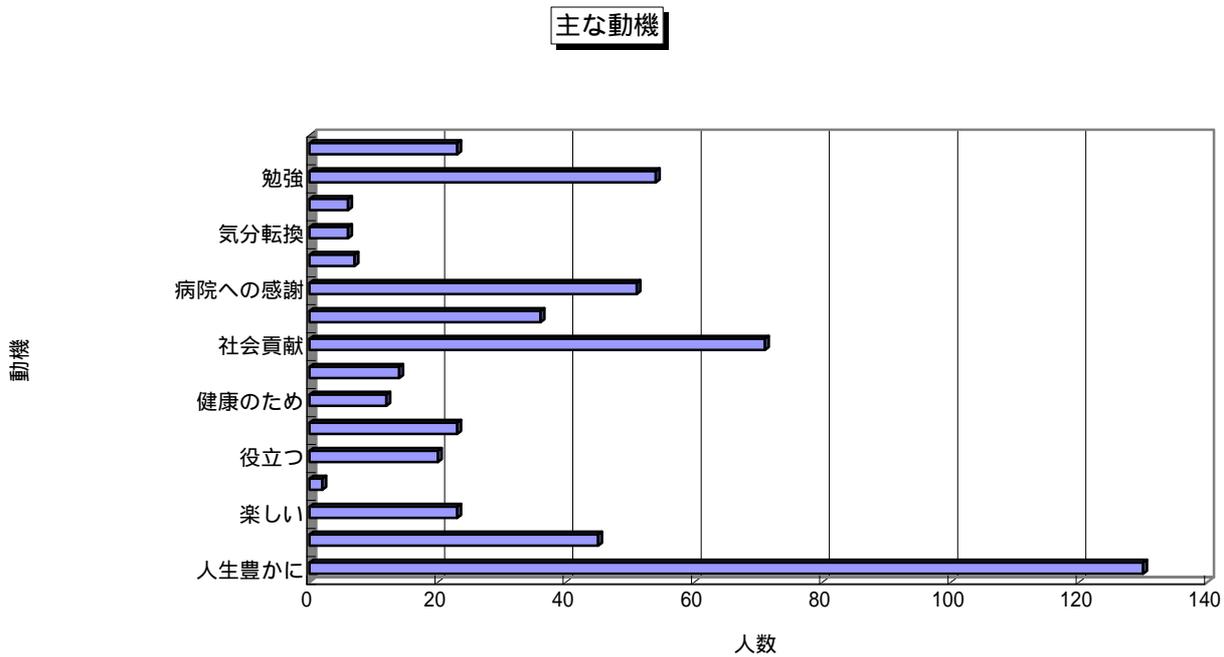


(1,1)に入る%

ボランティア活動への参加理由(もっとも大きな理由・動機は何か)  
 1998年「関東地区病院ボランティアの会」調査

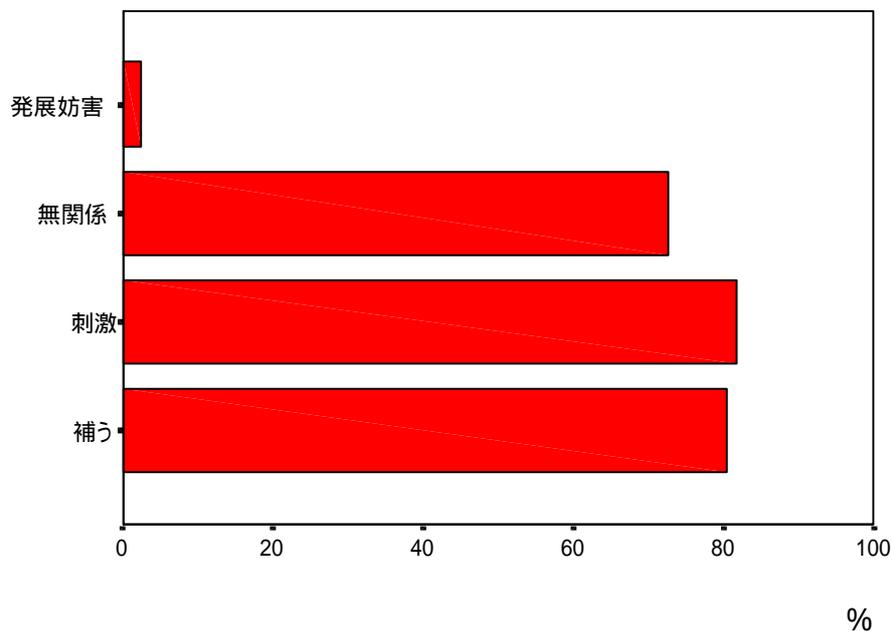


1999年「日本病院ボランティア協会」調査



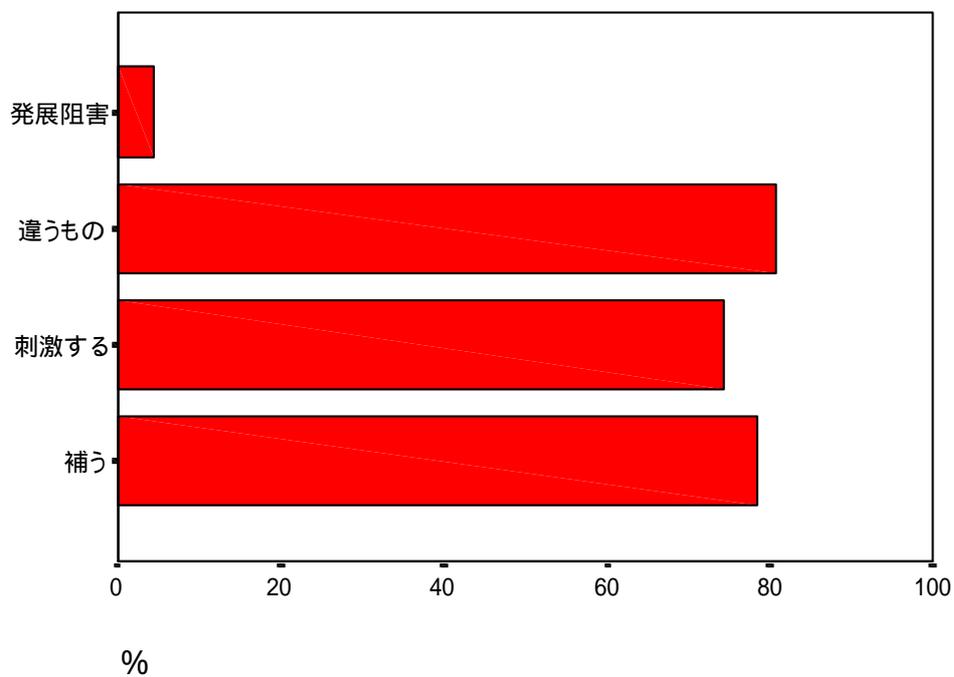
ボランティア活動と行政による公的サービスとの関係についての意識  
1998年「関東地区病院ボランティアの会」調査

### ボランティア活動と公的サービスとの関係



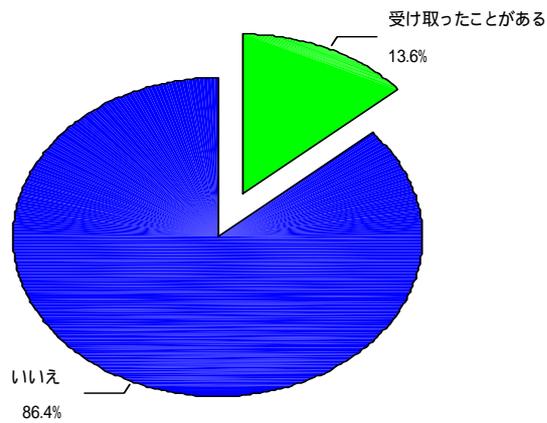
1999年「日本病院ボランティア協会」調査

### ボランティア活動と公的サービスとの関係

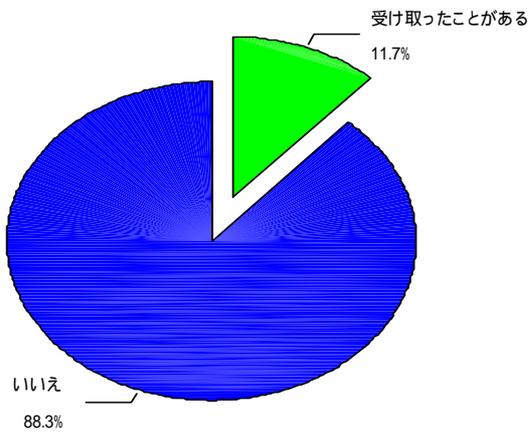


感謝の物品を受け取った経験の有無  
1998年「関東地区病院ボランティアの会」調査

病院から活動経費を

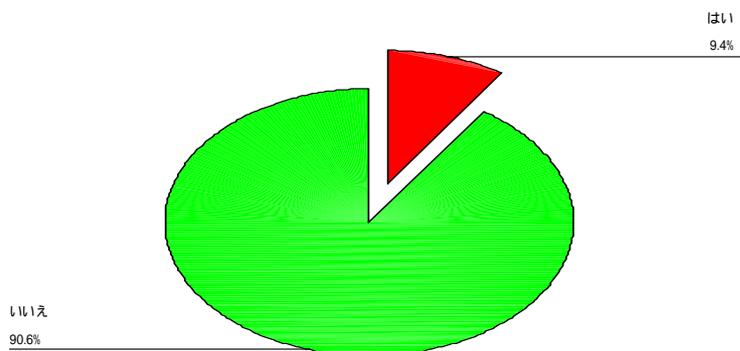


患者さんから感謝の物品を



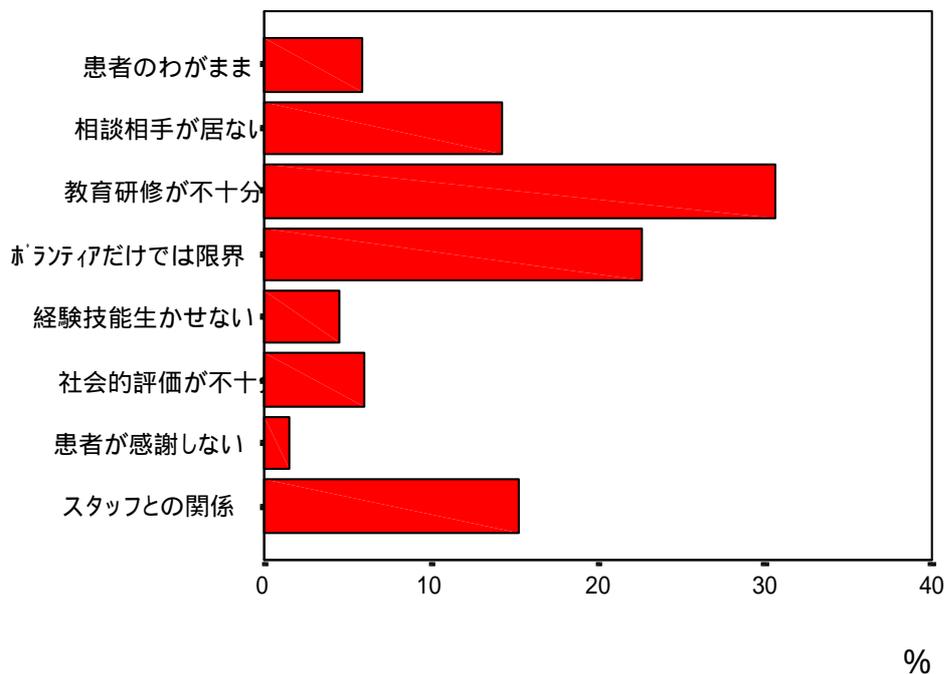
1999年「日本病院ボランティア協会」調査

感謝の物品を受け取った経験



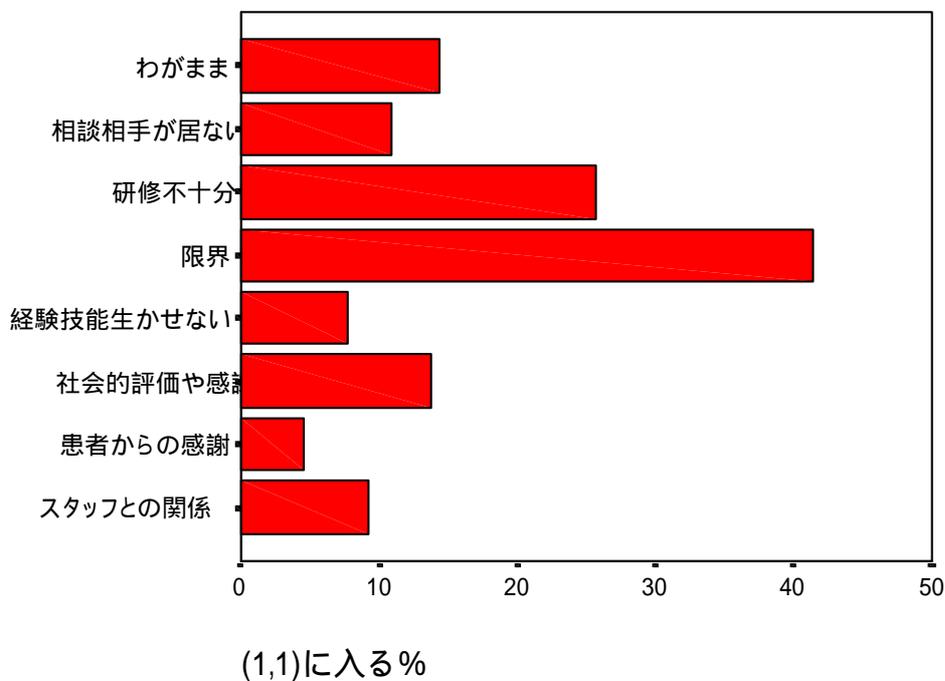
ボランティア活動に関して、問題や不満は  
1998年「関東地区病院ボランティアの会」調査

### 活動上の問題点



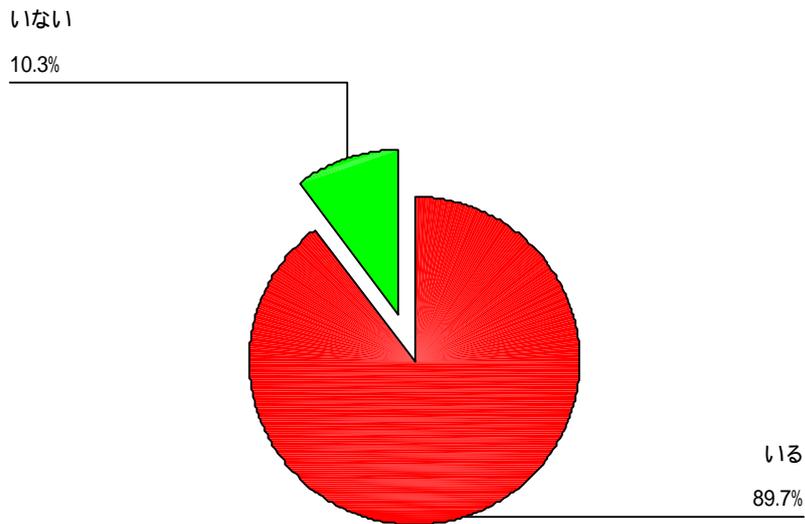
1999年「日本病院ボランティア協会」調査

### 問題や不満(複数回答)



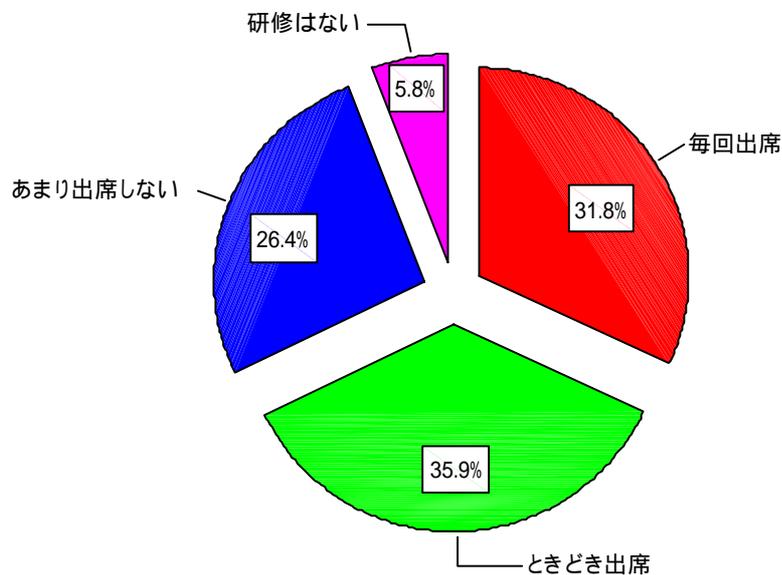
活動上の悩みや問題を、相談できる人が身近にいるかどうか  
1999年「日本病院ボランティア協会」調査のみ

### 悩みの相談相手はいるか



病院ボランティアの集まりや研修に出席しているか  
1999年「日本病院ボランティア協会」調査のみ

### 研修への出席は

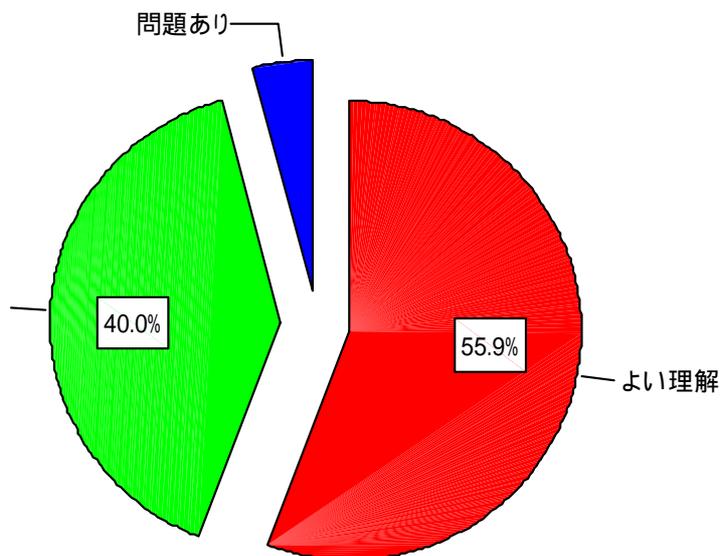


病院側の、ボランティア活動に関する理解はどうか  
 1999年「日本病院ボランティア協会」調査のみ

病院側の理解はどうか

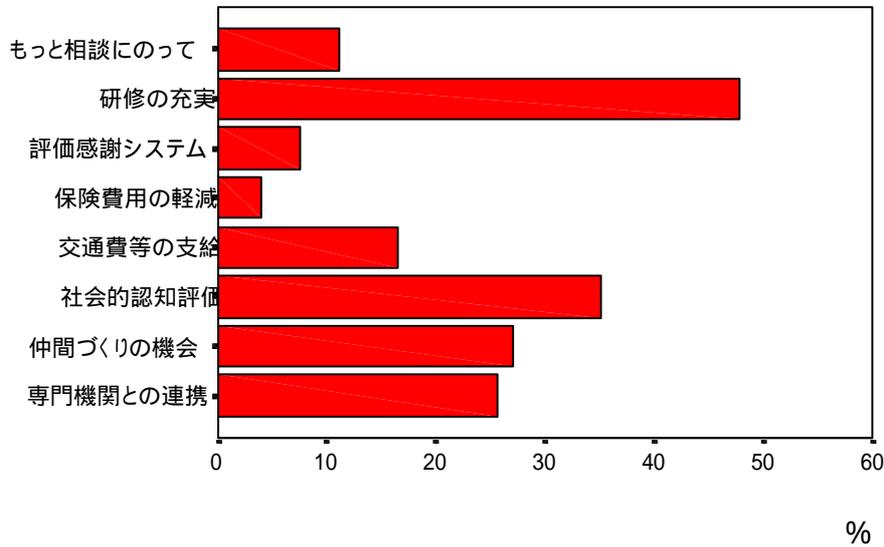
		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	よい理解	300	52.5	55.9	55.9
	理解もあれば不理解も	215	37.7	40.0	95.9
	問題あり	22	3.9	4.1	100.0
	合計	537	94.0	100.0	
欠損値	9	34	6.0		
合計		571	100.0		

病院側の理解はどうか



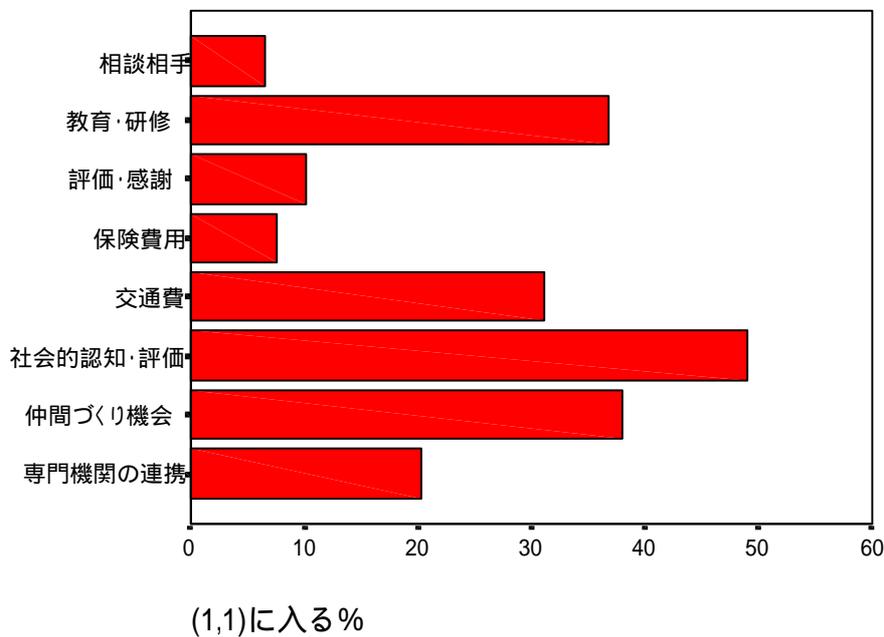
どうしたらボランティア活動が、より活発になると思うか。  
 1998年「関東地区病院ボランティアの会」調査

### 活動を活発にするために 一般的な要望



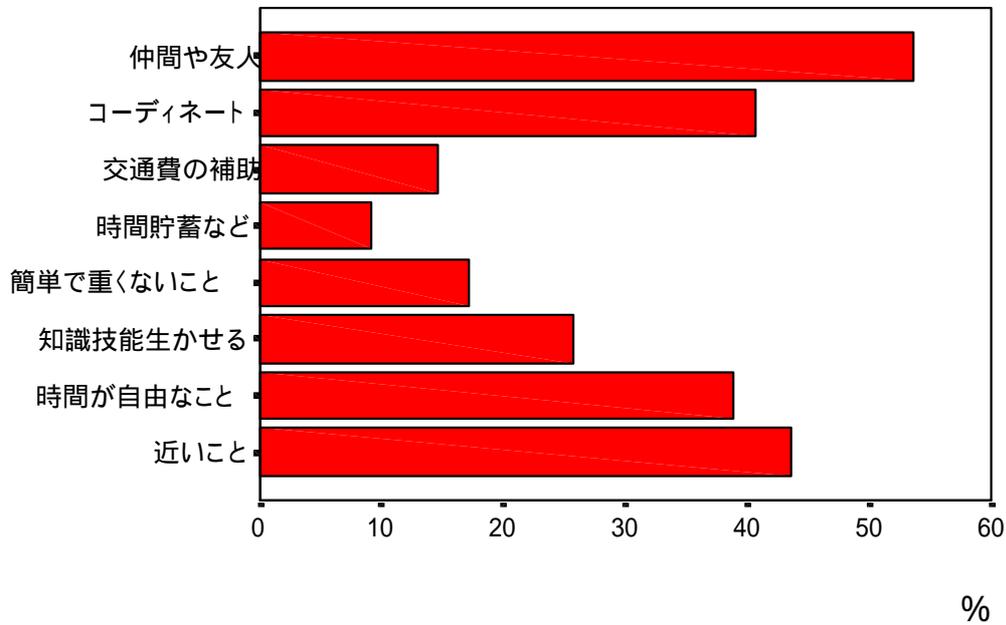
1999年「日本病院ボランティア協会」調査

### 活動しやすくなる条件(複数回答)



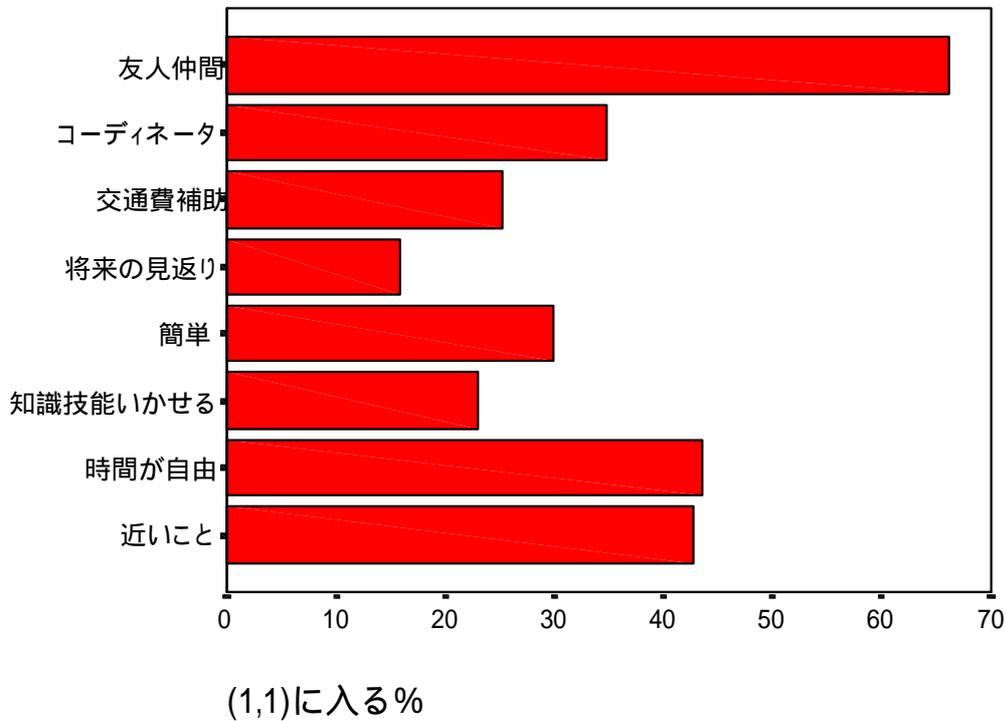
あなた自身が、よりボランティア活動しやすくなるための条件は何か  
 1998年「関東地区病院ボランティアの会」調査

## 活動をやりやすくするためには 個人として



1999年「日本病院ボランティア協会」調査

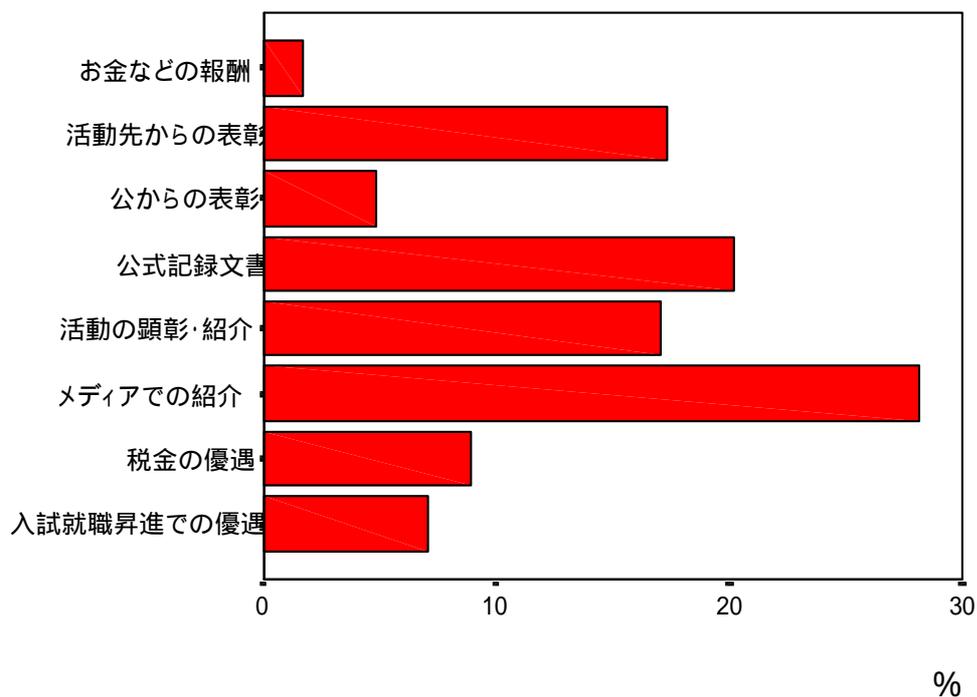
## Q19 活動しやすくなる条件(複数回答)



(1,1)に入る%

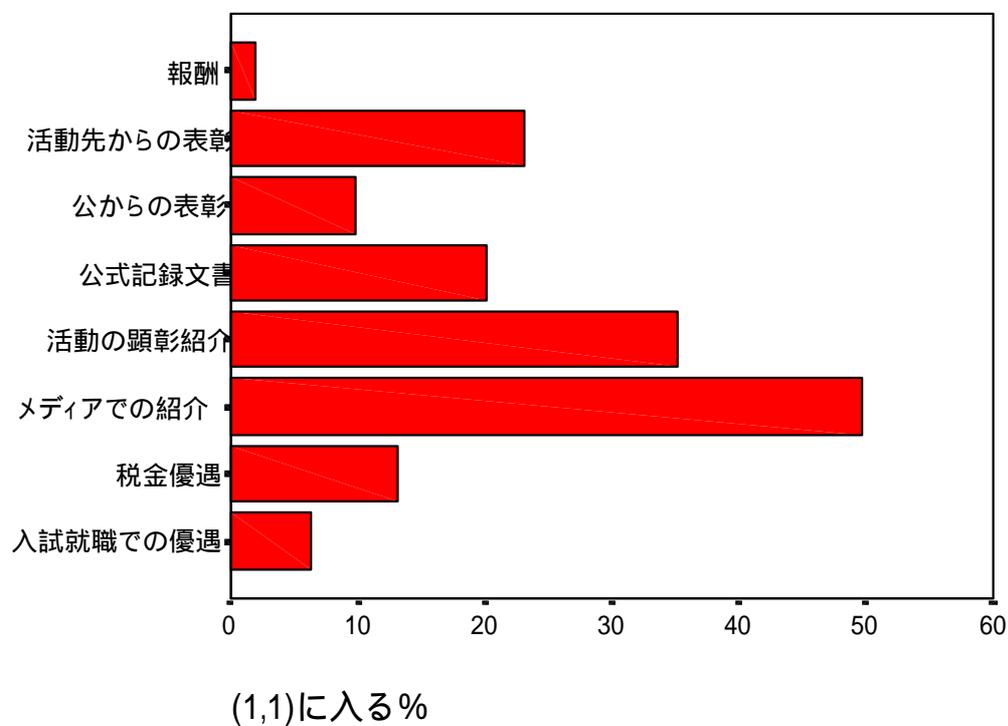
ボランティア活動に対する 社会的な感謝や評価は、どうあるべきか。  
 1998年「関東地区病院ボランティアの会」調査

### 望ましい社会的評価とは



1999年「日本病院ボランティア協会」調査

### Q20 感謝や評価のあり方(複数回答)



病院ボランティアの調査  
(調査票)

調査責任者  
九州大学・人間環境学研究所・助教授・安立清

史

〒812-8581 福岡市東区箱崎6-19-1 九州大学文

学部

TEL & FAX 092-642-4152 (安立研究室)

最初にあなたのボランティア活動についてお聞きします。

Q 1 あなたは、このグループで、どのくらいボランティア活動をしていますか。

( )年 ( )ヶ月

Q 2 あなたは、どのような活動をしていますか。あてはまるものすべての番号にマルをつけて下さい。

- 1 外来での活動  
(受診や検査についての案内、病棟への案内、リハビリの送迎、搬送、など)
- 2 病棟での活動  
(小児相手の活動、患者の話し相手、お茶のサービス、配膳や下膳、ベッドメイキング、お花の手入れ、など)
- 3 ホスピスや緩和ケア病棟での活動
- 4 リハビリ室などでの活動  
(デイケア、図書室活動、クラブ活動援助、各種イベントなど)
- 5 ボランティア室での活動  
(事務作業、郵便物の宛名かき、書類整理、ガーゼやシーツたたみ、など)
- 6 その他 (コピー、車椅子点検、庭仕事、その他)

Q 2 B そのなかで、いちばん多くする活動はどれですか。ひとつだけ番号をかいて下さい。

( )

Q 3 自分がイメージしていたボランティア活動と、じっさいの活動とのあいだに、違いはありませんでしたか。

- 1 あった。(どのようなことでしたか?)
- )
- 2 あったが、大きな問題ではなかった。
- 3 なかった。

Q 4 活動内容や配属先は、どうやってきめていますか。

- 1 病院側(婦長さんやボランティア係)がきめている
- 2 ボランティア代表がきめている
- 3 病院とコーディネーター、ボランティア代表等が相談してきめている
- 4 コーディネーターが決める

5 ボランティア自身が決める

Q 5 . あなたは、平均して、週に何回くらいボランティア活動をしますか。

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 1 . 月に1回未満  | 5 . 週に2回くらい |
| 2 . 月に1回くらい | 6 . 週に3回くらい |
| 3 . 月に2回くらい | 7 . 週に4回くらい |
| 4 . 週に1回くらい | 8 . 週に5回以上  |

Q 6 . 1回に、平均して何時間くらいボランティア活動をしますか。

( ) 時間くらい

Q 7 . あなたは、ボランティア活動場所の病院へ行くのに、どのくらい時間がかかりますか。

- |                   |
|-------------------|
| 1 . 15分以内         |
| 2 . 15分～30分くらい    |
| 3 . 30分～1時間くらい    |
| 4 . 1時間～1時間30分くらい |
| 5 . 1時間30分以上      |

Q 7 B . 活動場所までの交通費は、往復でどのくらいかかりますか。

( ) 円くらい

Q 7 C . あなたの病院では、交通費の補助がありますか。

- |                        |
|------------------------|
| 1 個人への交通費援助ある          |
| 2 グループへの援助がある          |
| 3 社会福祉協議会など病院以外から援助がある |
| 4 ない                   |

Q 8 . あなたは、この活動をどうして知りましたか。あてはまるものすべてにマルをつけて下さい。

- |                                  |
|----------------------------------|
| 1 . 家族が関わっていたから                  |
| 2 . 友人やクチコミ                      |
| 3 . パンフレットなどで見て                  |
| 4 . メディア（新聞、雑誌、テレビなど）            |
| 5 . 行政の出版物                       |
| 6 . 社会福祉協議会やボランティア・センターなどから紹介されて |

7. 教会・寺院などを通じて

8. その他 ( )

Q 8 B. あなたは、病院ボランティアとは違うボランティア活動をした(している)ことがありますか。

- 1 はい(現在もしている)
- 2 はい(現在はしていない)
- 3 いいえ(病院ボランティア以外はしたことがない)

次にボランティアに関するあなたのご意見についておうかがいします。

Q 9. あなたのボランティア活動についての一般的なイメージはどのようなものですか。あてはまるものすべてにマルをつけて下さい。

- 1. 障害を持つ人びとを助けること
- 2. 人生に意味を見いだすこと
- 3. 社会へ貢献する市民としての義務
- 4. 安全で住み良いコミュニティをつくるためのコミュニティ活動
- 5. コミュニティ内での相互扶助活動(自治会等は含めません)
- 6. コミュニティに限らず、ひろく社会一般に働きかける行為
- 7. 政府や自治体の活動やサービスの欠落したところを補う活動
- 8. 将来のために必要な活動
- 9. 見返りを期待しない活動
- 10. 社会問題に対する理解を深めさせるための活動
- 11. その他 ( )

Q 10. 自分の病気や入院体験がボランティア活動のきっかけでしたか。

- 1. はい
- 2. いいえ

Q 10 B 身近な人(家族、親族や友人など)の病気や死などがボランティア活動のきっかけでしたか。

- 1. はい
- 2. いいえ

Q 11. あなたは、なぜボランティア活動に参加されたのですか。あてはまる理由すべてにマルをつけて下さい(マルはいくつでもけっこうです)。

ボランティア活動は



Q 1 3 あなたは患者さんから、感謝の気持ちをこめた物品を受け取ったことがありますか。

1 . はい

2 . いいえ

Q 1 4 ボランティア活動に関して、どのような問題や不満を感じていますか。あてはまるものすべてにマルをつけて下さい。

- 1 . 利用者や患者のわがまま
- 2 . 活動の問題を相談したり、アドバイスしてくれる人がいないこと
- 3 . 教育・研修プログラムが不十分なこと
- 4 . ボランティアだけでは限界がある。もっと公的なサービスが必要である。
- 5 . 経験や技能を十分にいかせない
- 6 . 社会的な評価や感謝が十分になされていない
- 7 . 利用者や患者がボランティアに感謝しない
- 8 . 活動場所のスタッフと、ボランティアとの関係がうまくいかない
- 9 . その他 ( )

Q 1 5 活動上の悩みや問題のあるとき、身近に相談できる人がいますか。

1 いる

2 いない

Q 1 6 病院ボランティアの各種の集まりや研修には出席していますか。

- 1 毎回できるだけ出席するようにしている
- 2 ときどき出席している
- 3 あまり出席していない
- 4 ボランティアの集まりや研修はない

Q 1 7 病院は、ボランティアのことを理解していると思いますか。

- 1 とてもよく理解してくれている。
- 2 理解してくれる人とそうでない人とがいる
- 3 病院側の理解には問題がある

Q 1 8 どうしたら、ボランティア活動が、より活発になると思いますか。あてはまるものすべてにマルをつけて下さい。

- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| 1. もっと問題や悩みをきいてほしい  | 6. 活動の社会的な認知や評価を高める |
| 2. 教育・研修プログラムの充実    | 7. 仲間づくりの機会をふやす     |
| 3. 評価や感謝のシステムを発展させる | 8. 専門機関との連携         |
| 4. ボランティア保険費用を軽減する  | 9. その他 ( )          |
| 5. 交通実費や経費の支給       |                     |

Q 19 あなた自身がよりボランティア活動をしやすくなるための条件はどのようなものでしょうか。あてはまるものすべてにマルをつけて下さい。

- |                         |                    |
|-------------------------|--------------------|
| 1. 一緒に活動する仲間や友人<br>なこと  | 6. 自分の技能や知識を生かせる活動 |
| 2. コーディネートする人やグループがあること | 7. 時間に自由がきくこと      |
| 3. 交通費などを補助してくれること      | 8. 近くて訪問しやすいこと     |
| 4. 時間貯蓄などの方法による将来の見返り   | 9. その他 ( )         |
| 5. かんたんであまり重くない活動なこと    |                    |

Q 2 0 ボランティア活動にたいする社会的な感謝や評価は、どうあるべきだと思いますか。あてはまるものすべてにマルをつけて下さい。

1 . お金などの報酬 のマスメディア	2 . 活動先の施設や団体からの表彰状や感謝状 ボランティア活動の紹介	6 . テレビ、新聞、ラジオなど でのボラ
3 . 市や都道府県、国などからの表彰状	7 . 税金の優遇措置	
4 . ボランティア活動を記録した公式記録文書 優遇	8 . 入試・就職・昇進などでの	
5 . ニュースレターやパンフレットなどでのボラ ンティア活動の顕彰・紹介	9 . その他	

最後に、あなた自身のことについてうかがいます。これらは、統計的なデータとしてのみ扱うもので、決して個人的なプライバシーが漏れることはありません。

F 1	性別	1 . 男	2 . 女
-----	----	-------	-------

F 2	ご年齢	( ) 歳
-----	-----	-------

F 3 あなたは結婚されていますか。

1 . 既婚	2 . 死別	3 . 離婚もしくは別居	4 . 未婚
--------	--------	--------------	--------

F 4 あなたはどなたと同居していますか。あてはまる人すべてにマルをつけて下さい。

一人暮らしの方は、なにもマルをつけないで下さい。

1 . 配偶者	5 . 実父
2 . 子ども	6 . 実母
3 . 義父	7 . 義きょうだい
4 . 義母	8 . その他 ( )

F 5 あなたの宗教は何でしょうか。

1	プロテスタント	4	神道
2	カトリック	5	無宗教
3	仏教	6	その他 ( )

F 6 あなたはどの学校を卒業されましたか（最終的に卒業した学校でお答えください）。

1.	小学校	5.	大学
2.	中学校	6.	大学院
3.	高等学校	7.	その他
4.	短大・専門学校		

F 7 現在、あなたは働いていますか。

1	退職・引退している	6	専業主婦
2	パートタイムで働いている。	7	学生
3	フル・タイムで働いている	8	定職についたことはない
4	失業している（退職ではない）	9	その他（
5	自営業で働いている		）

（自由回答）

病院ボランティアの活動をして、良かったことはどんなことですか。

また、問題や課題があるとすれば、どんなことですか。

ご自由に、ご意見をお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。